

赤十字ゆかりの地ガイドブック R+travel.

Red Cross Travel.
Guidebook for Areas associated with
Japanese Red Cross Society



日本に受け継がれる
人道の心を探す旅へ。

Red Cross Travel. 赤十字ゆかりの地ガイドブック



日本赤十字国際人道研究センター



日本赤十字社

日本赤十字国際人道研究センター

発見の旅とは、
新しい景色を探すことではない。
新しい目で見ることなのだ。

——マルセル・ブルースト

四季折々の自然美に包まれた日本は
ロマンあふれる歴史と文化の宝庫でもある。

とりわけ幕末から明治にかけて

近代の黎明期に歴史の舞台となった地は

日本人のノスタルジーを掻き立てる精神のふるさとだ。

赤十字の歴史もまた、その時代と深い関わりがある。

日本赤十字社とその前身・博愛社。

設立に奔走した佐野常民と大給恒おほきつね。

博愛と人道の精神に生き、殉じた人々。

各地に、赤十字の歴史の重みと、

それを支えた人々の思いが息づいている。

これから紹介するのは、

日本赤十字社とさまざまな関わりを持つ場所。

この本を片手に出かけてみれば、

数多の出会いと人々の熱意が

今の赤十字を育んだことが感じられるはず。

土地に伝わる秘話に耳を傾けてもいい、

横道にそれて温泉や土地の名物を楽しんでもいい。

さあ、旅支度を整えたら、

自由に気ままな

赤十字再発見の旅へ出かけよう。

きつといくつもの発見が

あなたに「新しい目」を与えてくれる。



北海道・東北 *Hokkaido / Tohoku.*

北海道	01 日赤の森「朝日ヶ丘総合都市公園」	06
	02 イチイの木「北海道庁旧本庁舎」	07
青森	03 北海道委員部設立申立書「北海道立文書館」	07
	04 三上剛太郎生家	08
宮城	05 佐井村海峽ミュージアム	09
	06 赤十字看護看護婦慰霊碑「石巻赤十字病院」	10
	〈Column〉石巻赤十字病院、命の誓いの赤十字旗	10
岩手	07 日赤岩手乳児院	11
福島	08 新島八重の生誕地碑	11
	09 平時災害救護発祥の地記念碑	12
秋田	10 「別れの乳房」日本赤十字社秋田県支部	13
	11 「対の額」日本赤十字社秋田看護大学・秋田短期大学	13
	12 佐藤養助絵本店	14

本州最北端の地で佐井村と赤十字が結んだ絆 *Red Cross Stories 01* …… 15

関東 *Kanto.*

埼玉	13 埼玉支部旧社屋「嵐山町立嵐山幼稚園」	18
	14 殉職救護員慰霊碑「日本赤十字社埼玉県支部」	19
茨城	15 戦時救護資料展示コーナー「日本赤十字社茨城県支部」	19
東京	16 「赤十字社総会」の絵「聖徳記念絵画館」	20
	17 日本赤十字社発祥の地「東京通信病院」	21
	18 日本赤十字社跡記念碑	21

	19 殉職救護員慰霊碑「日本赤十字社本社」	22
	20 赤十字情報ブラザ「日本赤十字社本社」	22
	〈Column〉日本赤十字社初となった外国人難民支援活動 ポーランド孤児の受け入れ	23
	21 小松宮彰仁親王像「上野恩賜公園」	24
	22 東京都復興記念館	24
	23 佐野常民の墓「都立青山霊園」	25
	24 大給恒の墓「祥雲寺」	26
	25 日本赤十字看護大学史料室	26
	26 有栖川宮熾仁親王像「有栖川宮記念公園」	27
	27 萩原タケ女史の像「あきる野市役所五日市出張所」	27

佐野家ゆかりの地をゆく *Red Cross Stories 02* …… 28

——栃木県佐野市・群馬県高崎市上佐野町

中部 *Chubu.*

新潟	28 清水園（旧新発田藩下屋敷大名庭園）	34
富山	29 佐野源左衛門常世之遺跡碑「黒部市民会館」	35
福井	30 橋本綱常博士胸像「福井市立郷土歴史博物館」	35
	31 人道の港 敦賀ムゼウム	36
長野	32 長野県赤十字歴史資料館「日本赤十字社長野県支部」	37
	33 龍岡城五稜郭	38
静岡	34 佐野常民の別荘庭園「松風苑」	39
愛知	35 旧日本赤十字社中央病院病棟「博物館明治村」	40
	36 奥殿陣屋	41
	〈Column〉日本赤十字豊田看護大学の 「博物館明治村寄託赤十字史料」	41

近畿 *Kinki.*

滋賀	37 少年赤十字団発祥の地碑	44
大阪	38 日本初の救急車の写真「日本赤十字社大阪府支部」	44
	39 緒方洪庵旧宅（適塾）	45
兵庫	40 小楠公義戦之跡の碑	46
	41 赤十字山	47
	42 櫻井神社	48
	〈Column〉博愛社設立を支えた功労者・櫻井忠興	49
和歌山	43 博愛の碑「中央公園」	49
	44 和歌山支部秘書類「日本赤十字社和歌山県支部」	50
	〈Column〉日本赤十字社和歌山県支部に残る、 女子学生たちの血判書	50
	45 トルコ記念館	51

赤十字のアート・ピース *Red Cross Stories 03* …… 52

——京都第一赤十字病院の工芸品

中国・四国 *Chugoku / Shikoku.*

広島	46 マルセル・ジュノー博士記念碑「平和記念公園」	56
	47 袋町小学校平和資料館	57
	48 広島赤十字・原爆病院メモリアルパーク	58
	「日本赤十字社広島県支部」	58
	〈Column〉収蔵庫に眠る被爆遺構 「広島支部病院」のピアノ	59

徳島	49 広島支部旧社屋の門柱「日本赤十字社広島県支部」	59
	50 「天皇陛下御巡幸」の図「広島赤十字・原爆病院」	60
	被爆直後の広島赤十字病院の写真	60
	51 「広島赤十字・原爆病院」	61
愛媛	52 俘虜用郵便葉書「日本赤十字社徳島県支部」	61
	53 赤十字ゆかりの地碑「ドイツ村公園」	62
	54 ロシア兵墓地	63

九州 *Kyushu.*

佐賀	55 佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館	66
	56 中川副公民館	67
	57 佐野常民生誕地碑	67
	58 徴古館	68
	59 築地反射炉跡「佐賀市立日新小学校」	68
	60 精煉方跡	69
	61 國相寺	70
	〈Column〉佐賀市の住宅街にある 佐野常民の養父・蒲仙の宅地跡	70
長崎	62 野中烏犀圓本舗	71
熊本	63 福濟寺	72
	64 田原坂公園	73
	65 正念寺	73
	66 徳成寺	74
	67 拝聖院	74
	68 日赤記念館（熊本洋学校教師ジェーンズ邸）	75

もうひとつの「発祥の地」と玉名の地に伝わる物語

赤十字ゆかりの地全国マップ …… 76

78

北海道・東北 Hokkaido. / Tohoku.

山々の連なる雄大な景観、果てしなく広がる大地、荒々しい海……。豊かな自然環境が織りなす見事な景観が魅力の北海道や東北地方。

その自然の美しさのぶんだけ厳しい気候風土にさらされ、火山の噴火や津波など、過去に幾度も災害に見舞われた。

一方、明治維新以降、北に撤退を続けた旧幕府軍と新政府軍との戦いの舞台になったこともある。

しかし、そういった中から博愛の精神に満ちた偉人たちが生まれてきた。たとえば、「世界の宝」と称された医師・三上剛太郎。またNHK大河ドラマ「八重の桜」で知られる新島八重。そして日本赤十字社を創立した佐野常民の残した痕跡も、各地に見られる。

さあ、澄み切った空気を感じながら、北の地における日本赤十字社の軌跡をたどっていきましょう。

世界の宝と称された赤十字旗や
“日本のナイチンゲール”を生んだ地

噴火によって荒々しい山体となった磐梯山（P.12参照）を曾原湖から望む。ふもとの五色沼沼群は、裏磐梯の美しい自然が堪能できる人気の観光地となっている。

Hokkaido / Tohoku Area Map





01 日赤の森 [朝日ヶ丘総合都市公園]

■ 創立100周年につくられた「桜の園」

雄 大な自然が広がる北の大地・北海道の中央に位置し、ラベンダー畑で知られる富良野市。富良野盆地や十勝岳連峰を望む丘陵地には朝日ヶ丘公園が広がっている。日本百景のひとつとして知られ、地元で「なまこ山」と親しまれているこの公園のそばに、赤十字ゆかりの「森」がある。

「日赤の森」と呼ばれるこの庭園がつくられたのは、1977年9月のこと。日本赤十字社創立100周年と日本赤十字社北海道支部創立90周年を記念し、日赤富良野市地区と富良野市有功会が朝日ヶ丘総合都市公園内に造成。北海道の地形をかたどりに、支庁数と同じ14のエリアごとに、それぞれの市町村の花木を植栽した。敷地内には、日本赤十字社の創立者である佐野常民の胸像も建てられている。

四季折々の草花が楽しめるが、とくに見ごたえがあるのは桜の時期。毎年5月初旬頃、朝日ヶ丘公園の3千本の桜とともに満開を迎え、多くの道民が訪れ賑わいを見せる。日赤の森が「桜園」とも呼ばれるゆえんだ。



朝日ヶ丘総合都市公園が隣接する朝日ヶ丘公園の展望台からは、富良野の街の向こうに雄大な大雪山を望むことができる。

DATA 【住所】富良野市下御料 [TEL] 0167-39-2313 (富良野市都市施設課) 【アクセス】JR富良野駅から車で10分



■ 北の大地で日赤の歩みを見守る大木

北 北海道の名所のひとつ、「赤れんが」の愛称で親しまれている北海道庁旧本庁舎は、1888年に建てられたアメリカ風ネオ・バロック様式の建築。北海道の歴史的資料などが展示されているこの施設は庭園も見事で、春は桜やライラック、秋には紅葉と、季節ごとに異なる表情を楽しめる。そして前庭の一角にあるイチイの大木には、日本赤十字社の歴史が刻まれている。

このイチイの木はかつて、札幌市内にあった日本赤十字社北海道支部旧社屋の玄関正面に植えられていたもの。1958年に社屋を改築した際に移植され、以来、北海道支部の歩みを見守り続けている。



02 イチイの木 [北海道庁旧本庁舎]

イチイの木は庁舎入り口を背に右手の前庭、直近の角にある。



DATA 【住所】札幌市中央区北3条西6丁目 [TEL] 011-231-4111 (北海道庁) 【時間】8:45~18:00 (無休) 【アクセス】JR札幌駅から徒歩7分 ※年末年始休。休館中



03 北海道委員部設立申立書 [北海道立文書館]



DATA 【住所】江別市文京台東町41-1 [TEL] 011-388-3001 【時間】9:00~17:00 (月休) 【アクセス】JR大麻駅から徒歩9分 ※毎月末日休、祝日の場合前平日休、年末年始休

■ 佐野常民の書状に支部設立の原点を見る

日 本赤十字社の北海道における歴史が始まったのは1887年のこと。佐野常民が北海道庁長官の岩村通俊に北海道委員部の設立に関する申立書を数度にわたって送り、この年の11月26日、日本赤十字社北海道委員部が設立。最初の事務所は北海道庁仮庁舎内に設けられ、1896年には現在の支部がある札幌区北1条西5丁目に社屋が建てられた。

この書状が現在保管されているのは、江別市にある「北海道立文書館」。同館には、北海道支部から寄贈された本社往復文書や庶務綴、総会書類、親授式書類のほか、大正後期の災害救護書類なども簿冊として残されている。



04 三上剛太郎生家

赤十字の心に生きた医師の思いに触れる

青 森県下北半島の西側に位置する佐井村には、世界中の赤十字関係者から賞賛された医師・三上剛太郎の生家がある。

1869年、代々医家である三上家の長男（8代目）として生まれた剛太郎は、軍医として日露戦争に従軍。1905年1月、満州の野戦病院がロシア兵に囲まれ全滅の危機に瀕すると、とつさに手縫いでつくった赤十字旗を掲げ、それを見た兵士は攻撃の手を止めたという。

ロシア兵1名を含む70余名の命を救ったこの「手縫いの赤十字旗」。現在は日本赤十字社青森県支部の正面玄関前ホールに展示されている。

赤十字旗は、後年、スイスのジュネーブで開かれた赤十字100周年記念国際博覧会（1963年）や、イタリアで開かれた赤十字国際特別博覧会（1978年）で展示され、「世界の宝」と評された。

剛太郎は退役後、佐井村に戻り開業医として地域医療に尽力、1964年にその生涯を終えた。佐井村は剛太郎の功績を称え、生家を保存し展示館として公開。現在は全国でも貴重な和風医院建築として、青森県県重宝に指定されている。

剛太郎の掲げた「手縫いの赤十字旗」。現在は日本赤十字社青森県支部の正面玄関前ホールに展示されている。

DATA. 【住所】下北郡佐井村大字佐井字大佐井70-2 【TEL】0175-38-4515（佐井村観光協会）【時間】9:00～15:00 【アクセス】JR下北駅から車で約2時間 ※11月～4月は冬期休業



剛太郎の足跡を伝える本州最北の博物館

三 上剛太郎生家から海側に向かうと、観光船や下北汽船の発着場にたどり着く。ここにあるのが複合施設「津軽海峡文化館アルサス」。建物の前には、「赤十字の旗ひるがえる里」標語コンクルの入賞作品の標柱が設置されている。

そして、アルサスの2階にあるのが、佐井村の遺跡から出土した土器や石器、江戸時代に北国廻船などによってもたらされた交易品など200点を展示する本州最北の博物館「海峡ミュージアム」。佐井村の栄

誉村民である剛太郎ゆかりの品々も多数展示されており、軍服やマント、勲章、サーベルといった軍医時代の史料のほか、剛太郎直筆の手紙なども。1998年に佐井村が企画・制作したアニメーション「ひるがえれ赤十字の旗」三上剛太郎物語」の原画も鑑賞できる。

なお、アルサスには景勝地・仏ヶ浦へ向かう観光船の受付のほか、観光案内所やレストラン、物産店、津軽海峡と北海道まで見通す展望室もある。下北半島の観光がてら訪れてみたい。

DATA. 【住所】下北郡佐井村大字佐井字大佐井112 アルサス2階 【TEL】0175-38-4515（佐井村観光協会）【時間】9:00～15:00 【アクセス】JR下北駅から車で約2時間 ※11月～4月は冬期休業



館内には飲食スペースも充実している。佐井村名産のウニはぜひ賞味したい一品。



05 佐井村海峡ミュージアム



07 日赤岩手乳児院



DATA 【住所】盛岡市三本柳6地割1-10 【TEL】019-614-0821 【アクセス】JR盛岡駅からバス26分、日赤前下車すぐ

風 光明媚な自然環境の一方で、全域が豪雪地帯に指定されるなど気候が厳しい岩手。昭和初期は乳児死亡率が高く、大干ばつや冷害、三陸大津波と度重なる災害が発生した。こうした状況の中、日本赤十字社岩手支部病院で小児科医長を務めていた南出英憲は、結核や栄養失調に苦しむ乳幼児の増

加を憂慮し、1934年12月に岩手県社会事業協会、愛国婦人会岩手県支部、済生会岩手支会、日本赤十字社岩手支部の共同経営で無料の収容保育所を開設。同施設が日本赤十字社最古の乳児院であり、日赤岩手乳児院の前身である。現在の乳児院は2014年4月に新築移転、美しく生まれ変わった。

— 厳しい気候風土から生まれた最古の乳児院



06 赤十字救護看護婦慰霊碑
〔石巻赤十字病院〕

— 震災の被害からよみがえった慰霊碑

東 日本大震災で石巻赤十字看護専門学校は壊滅的な被害を受け、校庭にあった赤十字救護看護婦慰霊碑が津波により行方不明に。数か月後、旧校舎近くで台座が、次いで胴体部分が見つかり、2015年に海外救援金を活かした復興支援事業の一環として、石巻赤十字病院内で修復された。この像は、日中戦争以後の殉職者を慰霊するため、日本赤十字社看護師同方会が呼びかけ、1982年5月8日に宮城県支部などの支援により建立されたもの。敷石には赤十字国際委員会の標語「INTERNATIONAL ARM CARITAS」（戦いの中にも慈悲を）の文字が刻まれている。

DATA 【住所】石巻市蛇田字西道下71 【TEL】0225-21-7220 【アクセス】JR石巻駅からバス15分、日赤病院下車すぐ



Column

石巻赤十字病院 “命の砦”の赤十字旗



宮城県の石巻医療圏地域（石巻市・東松島市・女川町）は、2011年3月11日に起こった東日本大震災による死者・行方不明者が約6000名を数え、全被害者の3分の1に迫る最大の被災地となった。その石巻地域で被災地の“命の砦”として機能したのが、当時唯一、高次診療機能を維持した石巻赤十字病院だ。

4月11日までの1か月間にわたり9830名もの傷病者を受け入れ、その間、一度も降ろすことなく病院前に掲げられた赤十字旗。その実物が、現在は病院内の災害研修センターに展示されている。擦り切れた姿は痛々しく、野戦病院さながらだったであろう救護活動の様子を偲ばせる。



08 新島八重の生誕地碑

画像提供：同志社大学



DATA 【住所】会津若松市米代2-1-23 【TEL】0242-39-1251（会津若松市観光課）【アクセス】JR会津若松駅からバス11分、米代2丁目下車徒歩2分

— 幕末のジャンヌ・ダルク、新島八重生誕地

福 島の会津の地はさまざまに戦った幕末のジャンヌ・ダルク。新島八重もここで生まれたひとり。生誕の地碑があるのは、鶴ヶ城西口から約500メートル、兄・山本覚馬の生家である山本家の跡地付近。夫の新島襄が創設した同志社大学が

建立、戊辰戦争で鶴ヶ城に籠城した八重が開城前夜に詠んだ和歌が刻まれている。八重は明治維新後、京都に移住して襄と結婚。夫との死別後は日本赤十字社の正社員（会員）となり、京都篤志看護婦人会会長を務めながら、日清・日露戦争時に篤志看護婦として傷病者の看護に尽力した。



石碑のある毘沙門沼から磐梯山を望む。

■ 磐梯山のふもとに今なお残る救護への情熱

標 高1816メートル、「会津富士」とも呼ばれる磐梯山は福島県のシンボルであり、現在も小規模な噴気活動が続く活火山。1888年7月15日に噴火し、北麓の5村11集落が埋没、死傷者500余名を数える大惨事となった。この未曾有の災害に対し、日本赤十字社は医療救護員3名を派遣。地元・猪苗代町の医師とともに、昼夜を問わず被災者救護に当たった。

磐梯山の噴火は明治以降に日本で起こった初めての重大災害であり、当時、戦時以外の救護活動は世界的に見てもほとんど例を見なかったことから、平時災害救護の先駆的な事例となった。

1989年9月には、日本赤十字社福島県支部の創立100周年にあたり、先人の救護活動への情熱と偉業を偲ぶとともに、赤十字活動の発展を祈念して「平時災害救護発祥の地記念碑」を建立。そのゆかりの地・五色沼湖沼群のひとつである毘沙門沼のほとりに、今も静かに石碑が鎮座している。



石碑は五色沼駐車場の一角に建つ。下は磐梯山噴火における救護活動時の写真。



DATA 【住所】 耶麻郡北塩原村大字 桧原字剣ヶ峰1093-341 【TEL】 0241-32-2349 (裏磐梯観光協会) 【アクセス】 JR猪苗代駅からバス30分、五色沼入口下車徒歩10分



10 別れの乳房【日本赤十字社秋田県支部】



DATA 【住所】 秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館内【TEL】 018-864-2731 【アクセス】 JR秋田駅からバス7分、山王十字路下車徒歩5分

■ 戦争時の記憶を伝える救護看護婦の姿

第

二次世界大戦中、日本赤十字社の看護師には、看護婦養成所修了後に一定期間、戦場や災害現場の救護に赴く応召義務があった。

日本赤十字社秋田県支部收藏の絵画「別れの乳房」に描かれているのは、戦場に赴く救護看護婦の姿。国旗や赤十字旗を手にホームで見送る人々に背を向

け、幼子に乳房を含ませている。当時は残してきた子どもにも再び会うことができなかつた看護婦も少なくなかつた。

作者は明治期の洋画家・中澤弘光。戦争の悲しさと平和の尊さを今に伝える絵は、秋田県支部と秋田ケーブルテレビが制作した同名ドキュメンタリーのモチーフにもなった。

■ 2枚の絵画に理想の看護師像を見る

広 大な田園が広がり、日本の原風景が今なお残る秋田。日本画家協会秋田県支部理事長を務めた高橋萬年も、こうした郷土の風景を好んで題材とした日本画家のひとり。萬年が描いた「ナイチンゲール像」がかつて、1914年に秋田市内に開院し、東北初の赤十字病院となった日本赤十字社

秋田支部病院に飾られていた。また偶然にも、日本赤十字秋田看護大学の前身・秋田赤十字看護専門学校の1943年度卒業生が寄贈した「光明皇后像」も萬年の作品だった。現在ふたつは、東洋と西洋の理想の看護師像を描いた「一對の額」として収められ、同大学・短期大学の図書館に展示されている。



11 「一對の額」【日本赤十字秋田看護大学・秋田短期大学】



DATA 【住所】 秋田市上北手猿田字苗代沢17-3 【TEL】 018-829-4000 【アクセス】 JR秋田駅からバス15分、日赤病院前下車徒歩2分



白緑色の奇岩が約2キロにわたって連なる、風光明媚な「仏ヶ浦」。日本の秘境百選にも選ばれており、巨岩群が織りなす神秘的な景色は、多くの人を惹きつけている。

Red Cross Stories

01

本州最北端の地で 佐井村と赤十字が結んだ絆

青森県に「赤十字の旗ひるがえる里」づくりを推進している小さな漁村がある。「手縫いの赤十字旗」のエピソードで知られる医師・三上剛太郎の出身地である佐井村だ。

剛太郎誕生150年を迎えた2019年には、三上剛太郎生家（P.8）を中心に、赤十字の里づくり推進大会や、「赤十字の旗ひるがえる里」標語コンクール、ラジオドラマ「赤十字の心に生きた医師 三上剛太郎物語」の放送、救護車「博愛号」の設置などを行い、赤十字との絆をいっそう強めた。
そんな魅力あふれる佐井村に、ぜひ訪れてみては？

message



佐井村村長
樋口秀視さん

「佐井村は南北約40キロの海岸線と漁場を持ち、天然記念物・仏ヶ浦には年間十数万人の観光客が訪れます。仏ヶ浦は約2キロの海岸線に屹立する凝灰岩からなる奇岩群で、夏には山岳の緑や海と空の青とともに見事なコントラストを形成します。日本海の暖流が流れ込む漁場では一年を通じて多様な魚種が水揚げされ、春から夏にはウニ漁が盛ん。毎年6月のうに祭りでは、新鮮な生ウニやウニ丼、鮮魚をはじめ、県内の特産品を楽しめますよ」

本編でも紹介した「三上剛太郎生家」や「海峡ミュージアム」がある佐井村は、赤十字にちなんだ町おこしを行っている。その活動の様子と、村長からのメッセージをご紹介します。

12 佐藤養助 総本店



稲庭うどんはのどごしのなめらかさが特徴。店内には常民の書状などが展示されている。

稲庭うどんと佐野常民の織りなす歴史秘話

「たんぽにいぶりがつこき」など、食文化も豊かな秋田。中でも「稲庭うどん」は日本三大うどんのひとつに数えられる。秋田の片田舎の名物が全国的な知名度を誇るようになった陰には、佐野常民の功績があったことをご存じだろうか。

の次男・具定に献上の取り計らいを求める書簡を送ったことで宮内省御買上げになり、さらに人気が高まることとなった。湯沢市にある総本店内にはその書簡や、常民との交流を伝える資料が展示されている。

DATA. 【住所】湯沢市稲庭町字稲庭80
【TEL】0183-43-2911【時間】9:00～17:00（無休）【アクセス】JR湯沢駅からバス25分、稲庭中町下車徒歩1分 ※食事は11:00～。年末年始休



関東 Kanto.

博愛社から日本赤十字社へ。
過去から現代に至る時代の記憶をたどる

北西は山岳地帯、東南は太平洋に面し、日本最大の平野が広がる関東地方。中世には武士団により開拓が進められ、江戸幕府が開かれてからは世界でもまれにみる大都市となった。明治維新を機に皇室が京都御所から江戸城に移ると、日本の政治・経済・文化の中心として、さらに発展していくこととなる。

江戸から明治へ——。日本が近代化への道を歩む舞台となったことから、関東地方にはさまざまな「発祥の地」や「日本初」がある。日本赤十字社の前身・博愛社が最初に本拠地を置いたのも、日本赤十字社で初めて看護教育が行われたのもこの地でのこと。そして、創立者の佐野常民が眠る場所でもある。

そう、関東地方には、赤十字の歴史においても、さまざまな歴史的エピソードと、激動の時代の記憶が残されている。

Kanto Area Map



満開の桜に彩られた上野恩賜公園。明治時代に日本赤十字社第11回総会と日本赤十字社創立25年（周年）祝典が開かれるなど、歴史の舞台となった場所でもある（P.20参照）。

13 埼玉支部旧社屋 [嵐山町立嵐山幼稚園]



小川赤十字病院の庭に移築された六角殿。現在は「日向亭」と名付けられ、囲碁室などとして使われている。

DATA 【住所】比企郡嵐山町大字鎌形2230-1【TEL】0493-62-2150（嵐山町役場）【アクセス】東武東上線武蔵嵐山駅から車で10分

※内部見学は要事前問い合わせ



秩父の山を望む地で創成期の歴史を感じる
嵐山 山溪谷など埼玉を代表する景勝地がある嵐山町。秩父の山容を望むこの町の幼稚園の一角に、工学博士・牧彦七によって1905年につくられた日本赤十字社埼玉支部の初代社屋が今も残っている。

この社屋が、現在のさいたま市から移築されたのは1983年のこと。県有地の有効利用のため取り壊しの話が出たものの、県を代表する明治期の建造物のひとつであることから保存されることになった。もともとは写真の本館のほか、中庭には

独自の形状の六角殿があり、こちらは小川町の小川赤十字病院敷地内に移築されている。

建物正面と左右にある美しい妻飾りや、こけら葺きの山荘風の外壁は、19世紀末にアメリカで流行したシングルスタイルという建築様式の影響を受けたものの。裏に回れば、中庭に面した吹き放しの廊下という特徴的な構造を見ることが出来る。現在は、埼玉県の指定有形文化財でありながら、幼稚園の施設として園児に愛されている。



14 殉職救護員慰霊碑
【日本赤十字社埼玉県支部】



DATA 【住所】さいたま市浦和区岸町3-17-1【TEL】048-789-7117【アクセス】JR浦和駅から徒歩15分

戦時救護活動の過酷さを知る

戦時救護員の慰霊碑は、茨城県水戸市にもある。

日本赤十字社茨城県支部の前身に建つ「愛の灯像」だ。この立像の隣にある入口から社屋内に入ると、戦時救護活動時に救護員が実際に使用していた史料が展示されている。

赤十字の腕章を腕に巻いた看護婦制服、傷病者の看護時に着用した白衣、鉗子や注射器を収めたトランク……。使い込んだ背囊や飯ごう、革のブーツなどは、過酷な環境であったことをうかがわせる。

そのほか戦時救護関連の書籍や看護婦への表彰状・勲章なども。どれも、2001年の開設以来20年以上にわたり戦時の様子を伝えてきた貴重な史料だ。

平和への祈りが込められた乙女の像

太平洋戦争の際、戦時救護のため、埼玉県支部からは676名もの救護員が内外の戦地に派遣された。そのうち32名の救護員が殉職。ほとんどが二十歳前後の女性だった。

終戦後の1951年、対日講和条約が調印されたことを機に殉職救護員追悼式を行うことが決定。殉職救護員慰霊碑が

1955年12月に着工され、翌年4月12日に除幕式と慰霊祭が執り行われた。

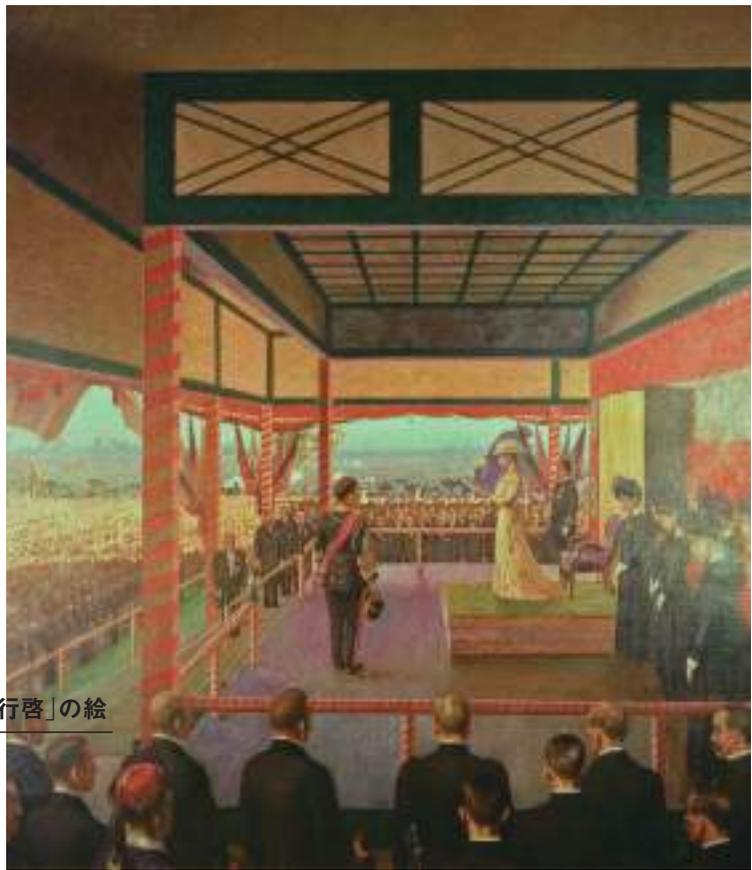
当初、慰霊碑は浦和市役所岸町庁舎にあった支部の敷地内に建立され、2011年に現在の場所に移設された。建立以来、現在に至るまで追悼式が毎年欠かさず行われ、遺族や赤十字社職員らが祈りを捧げている。



15 戦時救護資料展示コーナー [日本赤十字社茨城県支部]



DATA 【住所】水戸市小吹町2551【TEL】029-241-4516【時間】10:00~16:00（土日休）【アクセス】JR水戸駅からバス25分、国土交通省前下車徒歩10分



16 「赤十字社総会行啓」の絵

〔聖徳記念絵画館〕

皇太后と赤十字のつながりを描いた壁画

銀 杏並木で知られる明治神宮外苑は東京名所のひとつ。広大な庭園の中央には、1926年に建てられ、日本初期の美術館建築として国の重要文化財に指定されている聖徳記念絵画館がある。

絵画館は明治天皇・昭憲皇太后の事績を後世に伝えるために建てられ、館内には史実に基づく天皇と皇太后の遺徳を描いた日本画と洋画80枚が年代順に展示されている。そして館内に入って左側67番に、大正期の日本洋画界の重鎮・湯浅一郎が描

き、日本赤十字社が寄贈した「赤十字社総会行啓」の絵がある。

描かれているのは、1902年10月21日に上野恩賜公園で開かれた日本赤十字社第11回総会と日本赤十字社創立25年紀念(周年)祝典の様子。中央に当時は皇后であった昭憲皇太后の姿が見える。皇太后は赤十字事業に熱心に取り組み、「昭憲皇太后基金」は現在も各国の赤十字事業の助成に活用されている。夜間にライトアップされた建物は荘厳そのもの。銀杏が色づく季節にぜひ訪れたい。



絵画館は明治神宮外苑のシンボル。2階東側に日本画、西側に洋画を展示している。

DATA. 【住所】新宿区霞ヶ丘町1-1【TEL】03-3401-5179【時間】9:00~17:00(水休、入場料500円)【アクセス】JR信濃町駅・都営地下鉄国立競技場駅から徒歩5分 ※水曜祝日の場合は翌平日休。年末年始は10:00~16:00



17 日本赤十字社発祥の地〔東京通信病院〕



DATA. 【住所】千代田区富士見2-14-23【TEL】03-5214-7111【アクセス】JR飯田橋駅から徒歩5分

かつて博愛社の本拠地があった場所

J R 飯田橋駅のほど近く、東京通信病院の敷地に「日本赤十字社発祥の地」がある。案内板には、「日本赤十字社は、明治十年(1877)西南戦争の際、佐野常民・大給恒らが傷病者救護活動等のために設立した博愛社を前身としたもので、その本拠地は桜井邸に置かれた」と書かれている。

櫻井忠興(P.49)は博愛社設立の一員として金千円を寄付した人物。6月25日に大給恒ほか12名がここにあった桜井邸で会合し、最初の博愛社の仮事務所が置かれたのが、この地が「発祥の地」といわれるゆえんだ。なお、博愛社が救護活動を開始した熊本にも、いくつかの「発祥の地」がある。

博愛社〜日赤本社の移転の変遷をたどる

博 愛社は設立後、仮事務所を転々とする。1886年11月17日には、飯田橋3丁目付近の3千坪余りの土地に社屋と病院を建築。その翌年に博愛社から日本赤十字社に改称すると、1894年には甲武鉄道飯田町停車場建設のために立ち退き、本社を明治通り沿いに移転した。現在その跡地近くに「日本赤十字社跡」の碑が建っており、1912年に港区に移転するまでこの付近に本社があったことを示している。

DATA. 【住所】千代田区飯田橋4-5-9【アクセス】JR飯田橋駅から徒歩2分



建てた病院は、1891年5月1日に東京府南豊嶋郡の御料地内に移転。現在の日本赤十字社医療センターとなった。



18 日本赤十字社跡記念碑



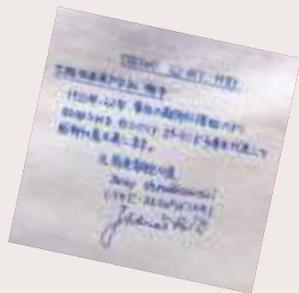
日本赤十字社初となった外国人難民支援活動、ポーランド孤児の受け入れ

1920年、第一次世界大戦とロシア革命後の内戦に巻き込まれたシベリア在住のポーランド人は、飢えと寒さ、疫病に苦しむ劣悪な環境に置かれていた。男たちは義勇軍として戦場へ、残された女たちは子どもを守って命を落とし、シベリアの厳しい大地には多くの孤児が取り残された。この窮状に、ウラジオストクにいたポーランド人の救済委員会が、当時シベリアに出兵していた欧米や日本に孤児たちの救出を要請。これにただちに対応したのが日本政府で、日本赤十字社に救援を要請したことが、初の外国人難民支援活動となった。

第1回の支援活動は1920年7月から翌年7月まで行われ、2歳から16歳までの孤児375人がウラジオストクから敦賀経由で東京に入り、渋谷区広尾にあった委託施設「福田会育児院」に収容された。孤児たちはそこで多くの支援を受けたのち、横浜港からアメリカ経由で祖国の土を踏む。また第2回の支援活動では、1922年8月に大阪府支部が中心となり、1歳から15才までの孤児390人が

大阪の市立公民病院看護婦宿舎に収容され手厚く保護された。この孤児たちは9月6日までに神戸港からヨーロッパ航路を經由して祖国に帰還した。これらの支援の詳細は、各都道府県支部所蔵の社史稿や「心で結ばれたポーランド孤児と大阪府市民」（日本赤十字社大阪府支部保管資料）に詳しく書かれている。

帰国した孤児たちは日本人から受けた心温まる支援を忘れず、1983年には孤児のひとり、イェジ・ストシャウコフスキ氏が日本を訪れ、日本赤十字社や支援に関わった人々に謝意を表している。



ポーランド孤児のひとり、ストシャウコフスキ氏から絵画とともに贈られた手書きのメッセージ。

■ 創立以来の殉職者に思いを馳せて

現

在、日本赤十字社本社があるのは港区芝大門。正門をくぐるとすぐ右に、元東京芸術大学教授の彫刻家・菊池一雄による、うら若い救護看護婦をかたどった立像と殉職救護員慰霊碑が建っている。

1977年に創立100周年記念事業の一環として建立されたもの。第二次世界大戦中、日本赤十字社は960班、実に2万9562名もの戦時救護看護婦を戦地に派遣、殉職者は1143名、負傷者は4689名にのぼる。毎年8月15日には、この慰霊碑と立像への献花が行われている。



19 殉職救護員慰霊碑

〔日本赤十字社本社〕



慰霊碑には日清戦争から第二次世界大戦において救護で殉職した1317名と、関東大震災や集中豪雨災害などの際の救護による殉職者9名の名簿と功績を収録した「遺芳録」が納められている。

■ 史料と映像でたどる日赤の歩み

日本赤十字社本社を訪れたら立ち寄りたいたいののが、赤十字情報プラザ。2003年4月に、それまで本社内にあった図書資料室、資料展示室、情報公開ルームを統合してオープンした情報提供施設だ。

日本赤十字社を創立した佐野常民にまつわる史料はもちろん、トルコ軍艦沈没事故や、福

島県磐梯山での初の災害救護活動、第二次世界大戦における戦時救護活動から東日本大震災での活動記録まで、本書でも触れている日本赤十字社の歴史を知ることができる。

施設内には図書室、閲覧スペース、資料展示スペース、映像展示などがあり、さまざまな史料や関連書籍が閲覧可能。



20 赤十字情報プラザ〔日本赤十字社本社〕



DATA: 【住所】港区芝大門1-1-3 日本赤十字社本社 西館1階【TEL】03-3437-7580【時間】9:30~17:00(土日祝休)【アクセス】都営地下鉄御成門駅から徒歩3分 ※5月1日休、年末年始休



21 小松宮彰仁親王像 [上野恩賜公園]



DATA. 【住所】台東区上野公園5-20【TEL】03-3828-5644【アクセス】JR・東京メトロ上野駅から徒歩2分、京成線京成上野駅から徒歩1分

銅像に刻まれた博愛社総長と社長の絆

上 野恩賜公園には、西郷隆盛像をはじめさまざまな偉人の銅像がある。1877年9月に博愛社の総長、のちの総裁に就任した小松宮彰仁親王の像もそのひとつ。

ともに「今日の隆昌は総裁あつてのものであるから銅像を建立したい」と語り、1912年3月18日には除幕式が行われた。馬上の臨場感や軍の正装に身を包んだ姿が見事に描かれ、台座には六甲山の花崗岩が使用されている。有栖川宮熾仁親王像（P.27）と同じ大熊氏廣の作。ぜひ見比べてほしい。



23 佐野常民の墓 [都立青山霊園]



青山霊園は桜の名所でもある。春には満開の桜越しに六本木ヒルズなど都心の風景を望むことができる。

DATA. 【住所】港区南青山2-32-2【TEL】03-3401-3652【アクセス】東京メトロ外苑前駅から徒歩7分



関東大震災と東京空襲の犠牲者を悼む

1 923年に発生した関東大震災。「あそこに行けば助かる」と数万人が陸軍被服廠跡に集まり、多くが焼死。

東京市の死者5万8000人のうち3万8000人がここで犠牲になった。その場所に建つのが東京都復興記念館。隣接する東京都慰霊堂には関東大震災の犠牲者と、東京空襲で亡く

なった10万5400人の霊が祀られている。

記念館には関東大震災や東京空襲の資料が展示され、正面階段を上って右側の壁には、震災当時、日本赤十字社が行った救護活動を描いた絵画が飾られている。そのほかアメリカ赤十字社が義援金を呼びかけたポスターなどにも注目したい。



22 東京都復興記念館

日本赤十字社の救護活動を描いた絵画。



DATA. 【住所】墨田区横網 2-3-25【TEL】03-3622-1208【時間】9:00~17:00(月休)【アクセス】都営大江戸線両国駅から徒歩5分
※祝日の場合翌日休、年末年始休

都心の墓所に眠る『日本赤十字社の父』

歴

史上の人物や著名人が数多く眠る都立青山霊園。明治維新の立役者である大久保利通、第29代内閣総理大臣・犬養毅、陸軍大将・乃木希典、志賀直哉、市川團十郎、忠犬ハチ公……そして、日本赤十字社を創立した佐野常民もこの霊園に眠っている。

るのは容易でないが、その墓所は霊園の中央交差点に近い東9通り(1種1イ5号26側)にある。写真左が常民、右が駒子夫人の墓で、墓前には、1912年12月の没後10年祭にあたり日本赤十字社から功労追謝のために贈られた一对の石灯籠が建つ。また、すぐ近くには、同郷で明治の六大教育家のひとりとして知られる大木喬任の墓も。

なお、この墓所は佐野家の所有となつているため、許可のない献花などの供物や清掃などはお控えを。

博愛社設立の立役者が眠る大名の菩提寺

大 給恒は、佐野常民と並んで博愛社の設立に尽力し、日本赤十字社初代副社長を務めた人物。その墓は、日本赤十字社医療センターにほど近い祥雲寺の境内にある。

祥雲寺は、福岡藩初代藩主・黒田長政を弔うために創建された同藩の菩提寺で、ほかにも多くの大名が眠る。恒ももとは奥

殿藩の大名で、龍岡城（P.38）の城主だった。

恒は私邸の松の木の下にあった3メートルあまりの石を「碧玉牀」と名付け、そこに腰を下ろして過ごすことを好んだという。1910年1月6日に72歳でその生涯を終えると、遺言に従って、墓地に碧玉牀が敷かれることになった。



24 大給恒の墓 [祥雲寺]



DATA. 【住所】渋谷区広尾 5-1-21 【TEL】 03-3400-6526 【アクセス】 東京メトロ広尾駅から徒歩3分

都心の閑静な公園にルーツを求めて

小 松宮彰仁親王像（P.24）と同じ大熊氏廣作の像は有栖川宮記念公園にもある。有

栖川宮熾仁親王像は1903年に皇居桜田濠（三宅坂）の旧陸軍参謀本部の庭に建てられ、1962年に有栖川宮邸のあった現在の場所に移された。

熾仁親王は、西南戦争において明治政府軍の征討総督を務めた人物。激戦のさなか、熊本ジェーンズ邸（P.75）で陣頭指揮に当たっていた熾仁親王は、佐野常民と大給恒からの博愛社設立の請願書を受け、快諾。

1877年の博愛社設立につながる事となった。日本赤十字社に改称した1887年5月20日には総裁に就任している。

DATA. 【住所】港区南麻布5-7-29 【TEL】 03-3441-9642 【アクセス】 東京メトロ広尾駅から徒歩3分



26 有栖川宮熾仁親王像

[有栖川宮記念公園]



130年以上の看護史の重みを知る

看 護教育が日本赤十字社で始まったのは、現在の

日本赤十字看護大学の前身・日本赤十字社病院看護婦養成所ができた1890年のこと。その130年以上の歴史で培われてきた膨大な史料を収集・編纂しているのが、同大学史料室。看護学の教材や書籍、医療器具、卒業生の国際派遣や救護

活動に関する手記などの多岐にわたる収蔵品は、赤十字史や看護史として、また災害史や戦史の観点からも貴重なものだ。

それらの一部は大学1階ロビーに展示されており、開校時は看護を志す学生はもちろん、誰でも自由に閲覧可能。毎週金曜日には、希望者に史料室内も公開している（要事前連絡）。



25 日本赤十字看護大学史料室

ロビーには展示コーナーが常設されている。



DATA. 【住所】渋谷区広尾 4-1-3 【TEL】 03-3409-0875 【時間】 10:00～15:00（金のみ公開）【アクセス】 東京メトロ広尾駅から徒歩15分

多摩に生まれ世界で活躍した看護婦

東 京23区とはうってかわって自然豊かな多摩地区にも赤十字ゆかりの地がある。

萩原タケ女史の胸像だ。タケは1873年2月7日に

五日市村の炭問屋の長女として生まれ、日本赤十字社の看護婦養成所を卒業後、病院船「弘済丸」の看護婦長として日露戦争で傷病者看護に活躍。その後パリに留学し、ロンドンで開催された第2回万国看護婦大会で名誉副会長に推薦され、日本赤十字社では看護婦監督を務めた。1920年にはナイチンゲール

ル生誕100周年を記念した第1回「ナイチンゲール記章」を、山本ヤヲ、湯浅うめとともに受章。台座には「人道のために国家のために」と刻まれている。

DATA. 【住所】あきる野市五日市411 【TEL】 042-558-1111 【アクセス】 JR武蔵五日市駅から徒歩15分



27 萩原タケ女史の像

[あきる野市役所五日市出張所]

佐野家ゆかりの地をゆく

― 栃木県佐野市・群馬県高崎市上佐野町



祖先・佐野源左衛門常世と佐野常民のつながり

日本赤十字社を創立した佐野常民のルーツを追っていくと、旧下野国である栃木県の佐野市と、旧上野国である群馬県高崎市の上佐野町にたどりつく。

ふたつの土地に共通するのは、謡曲「鉢木」の主人公として知られる坂東武士・佐野源左衛門常世ゆかりの史跡。佐野氏は、平安時代中期の武将・藤原秀郷を祖先とし、代々唐沢山城を居城としていた。常民は秀郷から数えて15代の景綱を祖とする常世の末裔であると伝えられている。その常世の墓があるのが、かつて

「いざ鎌倉」で知られる謡曲「鉢木」の主人公・佐野源左衛門常世。この人物と日本赤十字社を創立した佐野常民には深い関係がある。栃木県と群馬県を舞台に、そのつながりを追った。

佐野藩が置かれた栃木県佐野市にある願成寺。近隣には、常世が暮らしたといわれる館跡も残っている。

常世の一族は、徳川家康の時代に下野国にあった佐野藩（藤姓）が廃藩となったことで越前へ移り、その後京都へ上つてからは鍋島家に召し抱えられたことで、佐嘉（現在の佐賀県）で代々藩医を務めることになった。そして佐野家の当主であった常世（P.70参照）の養子となって37代目の家督を継いだのが、1823年に佐賀藩士の下村家に生まれた常民だった。その後、幕末の動乱期を駆け抜け、西南戦争のさなかに日本赤十字社の前身・博愛社を設立することになる。

高崎市の地「佐野」は

「いざ鎌倉」の舞台

一方、群馬県高崎市には、その名も「常世神社」がある。常世の宅跡と伝えられる、謡曲「鉢木」の舞台となった場所だ。

ときは鎌倉時代。大雪のある日、領地を一族に奪われて上野国の佐野で窮乏生活を送っていた常世の住むあばら家に、旅の僧が一夜の宿を求めて訪れた。常世は秘蔵していた

梅、松、桜の鉢の木を囲炉裏にくべてもてなし、「今でこそ落ちぶれているが、いざとなれば鎌倉に馳せ参る」と語る。その後、幕府から命令が下り、諸国の武士とともに瘦せ馬を鞭打って駆けつけると、そこには大雪の日の旅の僧の顔があった。この僧こそ、最明寺入道、すなわち鎌倉幕府の第5代執権・北条時頼だった。時頼はかの日の礼として、常世に本領の安堵を約束し、梅、松、桜にちなんで、加賀の梅田、上州の

右から、願成寺（栃木県佐野市鉢木町15-5）の佐野源左衛門常世の墓、常世の住居跡と伝えられている常世神社（群馬県高崎市上佐野町495-2）の鳥居と社。

佐野常民家系図





かつての「佐野の渡し」の烏川に架かる現在の佐野橋。

松枝（松井田）、越中の桜井の三ヶ庄を恩賞として与えたという。「いざ鎌倉」の由来となったこの物語を解説したパネルは、現在も常世神社境内に置かれている。ちなみに、三ヶ庄を賜った史実は確認できないものの、現在、桜井とされる場所には「佐野源左衛門常世之遺跡」の石碑（P.35）がある。

万葉集や浮世絵にも

「佐野」の地名が

常世神社がある高崎市上佐野町近郊は、古くから「佐野」の地名で呼ばれている。その地名は万葉集にも歌われていて、「上つ毛野 佐野の舟橋 取り離し 親は放くれど 我は離るがへ」（船橋の板を取り離して親はふたりが会えないように引き離そうとするけれど、簡単には引き離せるものか）の歌碑が、上信電鉄「佐野のわたし駅」の近くに建っている。

また、葛飾北斎が『諸国名橋奇覧』



葛飾北斎「かうつけ佐野ふなはしの古づ」。並べた舟の上に板を乗せた仮橋の情景が描かれている。足立区立郷土博物館収蔵資料データベース

で描いた浮世絵「佐野の舟橋」も烏川下流にあったとされている。しかし実際の舟橋は江戸時代にはすでに存在していなかったため、北斎は万葉集の歌枕の地「佐野の舟橋」をイメージしてこの絵を描いたのではないかと。現在ではかつての佐野の船橋を偲ぶかのように、烏川を渡る上信電鉄鉄橋のすぐ下に木製の「佐野橋」が架けられている。

佐野源左衛門常世は史実か伝説か

ところで、栃木県佐野市と群馬県高崎市上佐野町に伝わるこの佐野源左衛門常世という人物は、はたして実在したのだろうか。多くの研究者は、北条時頼の廻国伝説を扱った「増鏡」や「太平記」に「鉢木」の記述が見られないことから、常世の存在を疑問視しているようだ。

群馬県の「佐野」という地名

の由来は定かではないが、山間の狭い平地を意味する「狭野」が語源ともいわれており、前述の万葉集にもその名が見られるように古代より「歌枕」の地とし

て広く知られていたようだ。また、飛鳥時代の681年に建立され、2017年に世界記憶遺産に登録された日本最古の石碑「山上碑」（高崎市山名町）にも、大和朝廷の直轄地「佐野三家」の記述があり、日本最古の地名表現といわれている。

これらの事実から、地元の高崎商科大学の熊倉浩靖特任教授は「佐野は現在の高崎市南東部を中心とする地域名であり、常世を主人公とする謡曲『鉢木』も歌枕の地としての『佐野』をもって作品としたのではないかと考えている。

また、謡曲「鉢木」における常世譚を定着させたのは能楽に精通した高崎藩主・安藤家であると思われること、さらに常世の系譜も佐野氏の地域でのちに伝承化された可能性が高く、「常世」の名も「古代日本で信仰された海の彼方にある理想郷『常世（とこよ）の国』を連想させる」としている。

日本赤十字社初代社長・佐野常民と、坂東武士・佐野源左衛門常世を

つなぐ「点と線」はおおいにロマンを掻き立てるが、史実とは別物と考えたほうがよさそうだ。

ちなみに高崎市内では、「鉢木」のエピソードをモチーフにした「鉢木」の「いざ鎌倉」や「鉢木の里」などの銘菓が親しまれている。はてしない歴史のロマンに思いを馳せながら味わってみるのも一興だ。



高崎市にある和菓子店「鉢の木七富久」で販売されている銘菓「鉢の木『いざ鎌倉』」。物語にちなんだ梅・桜・松の3種類。

常世神社の境内にある、「鉢木」のフンシーンを再現したパネル。旅の僧をもてなすため、常世が大切にしていた桜の木を惜しげもなく薪にしている。



中部 Chubu.

日本の東西が交わる地に見出した
日本赤十字社の足跡

日本列島のほぼ中央に位置する中部地方には、多様な地域性がある。ここでは、東西の経済・文化が交わる場所として、バリエーション豊かで独自性の高い文化と歴史が育まれてきた。

たとえば長野県の「龍岡城五稜郭」は、日本にふたつしかない五芒星型の稜堡を持つことで知られる洋式城郭。

福井県に目を転じれば、古くから海運の要衝として栄え、明治時代には国際貿易の拠点として「東洋の波止場」と謳われた「敦賀港」が、近年では「人道の港」として再び評価を高めつつある。そしてこのどちらにも、日本赤十字社は深く関わっている。

日本海に面した豪雪地帯・新潟から、太平洋側の温暖な気候が心地いい静岡まで。各地に残された赤十字の歩みをたどっていきこう。



博愛社設立に携わった大給恒が奥殿藩主として築城した龍岡城五稜郭 (P.38) のお堀。敷地内の資料館では恒と赤十字の関わりをボランティアスタッフが解説している。

28 清水園(旧新発田藩下屋敷大名庭園)



大名庭園に育まれた看護教育の母の面影

かつて越後と呼ばれ、11も
の藩に分かれていた新
潟。日本有数の米どころらしく
美しい水田に囲まれた地に、か
つて新発田藩の藩主・溝口家の
下屋敷(清水谷御殿)だった大名
庭園、清水園がある。

新発田藩の12代藩主・溝口直
正の養妹である栄姫は、有栖川
宮熾仁親王のもとに嫁ぎ、董子
妃として夫とともに佐野常民ら
を助けて博愛社の設立に尽くし
た人物。1884年には看護婦
教育所の設立資金を得るため、
総長として「婦人慈善会」(チャ
リティバザー)を鹿鳴館で開催
し、日本初の看護教育施設が生
まれることとなった。東京・新
橋の慈恵看護専門学校には看護
婦教育所創設之地碑がある。ま
た、慈恵会幹事長や日本赤十字
社篤志看護婦人会幹事長も務
め、日本看護教育の母ともいわ
れている。

園内の史料館には、有栖川宮
家へ輿入れした際の小筆筒をは
じめ、新発田城内で撮影された
栄姫時代の写真や、溝口家が提
供した董子妃となったあとの写
真なども展示されている。



清水園は国指定名勝。紅葉の時期には夜間ライトアップが行われるなど、四季折々の風景を楽しむことができる。

DATA 【住所】新発田市大栄町7-9-32
【TEL】0254-22-2659【時間】9:00
~17:00(無休、大人700円、小・中
学生300円)【アクセス】JR新発田駅
から徒歩7分

※11~2月は~16:30。年末と1・2月の水休



29 佐野源左衛門常世之遺跡碑 [黒部市民会館]



DATA 【住所】黒部市三日
市 2981【TEL】0765-
54-1171【時間】9:00~
22:00(無休)【アクセス】
富山地方鉄道東三日市駅
から徒歩1分 ※年末年始休

戦時救護に尽力した偉人の功績を称えて

博 愛社病院、現在の日本赤
十字社医療センターの
初代院長・橋本綱常は、福井の
誇る偉人。1845年7月24
日、福井藩医・橋本家の五男と
して生まれ、11歳で家を継ぐと、
長崎やヨーロッパで医学を学
ぶ。このとき軍の衛生制度や赤
十字事業、万国赤十字条約加盟
についても調査。帰国後は陸軍

軍医監、東京帝国大学医科大学
教授を歴任し、1886年に博
愛社病院院長に就任。看護師動
務の基礎をつくり、戦時救護に
力を尽くした。

福井市立郷土歴史博物館に
は、福井県のみならず日本の近
代医学の発展に寄与した綱常の
功績を讃えるため、福井県医師
会が建てた胸像が残る。

黒 部峡谷や宇奈月温泉な
どで知られている黒部
市は、かつて桜井町と呼ばれ、
現在も桜井という名が多く残っ
ている。

この地は、佐野常民の祖先と
される佐野源左衛門常世(P.28)
ゆかりの地。謡曲「鉢木」で常世
に恩賞として与えられた三ヶ庄
のうち、「越中の桜井」が黒部市

佐野常民の祖先と子孫をつなぐ石碑

三日市のあたりであると伝えら
れている。

この伝説にちなみ、黒部市民
会館の庭に「佐野源左衛門常世
之遺跡」と刻まれた記念碑が建
ち、入口道路付近には記念の桜
の木も植えられている。碑文の
題字は、常民の子孫である佐野
常羽によるもの。歴史のつなが
りに思いを馳せてみたい。



30 橋本綱常博士胸像 [福井市立郷土歴史博物館]



DATA 【住所】福井市宝
永 3-12-1【TEL】0776-
21-0489【時間】9:00~
19:00(無休、入場料
220円)【アクセス】JR福
井駅から徒歩15分 ※11月6日
から2月末日は~17:00。年末年始休



「東洋の波止場」から「人道の港」へ

本 州日本海側沿岸のほぼ中央に位置する福井県敦賀市。敦賀港を拠点に古くから大陸との交流が行われてきたこの地は「東洋の波止場」と謳われ、歴史の舞台となってきた。

1920年には、ロシア革命後のシベリアで家族を失ったポーランド孤児375人を敦賀港経由で保護（P.23）、日本赤十字社敦賀委員部や敦賀市民らは丁重に受け入れたといわれている。また1940年、ナチスドイツから逃れたユダヤ人難民らが、杉原千畝が発給した「命

のビザ」を握りしめて上陸した場所でもある。「人道の港 敦賀ムゼウム」は、これらの史実を伝えるために2008年に開館した資料館。ポーランド孤児上陸100周年、命のビザ発給80周年を迎えた2020年には往時の建物4棟を復元し、リニューアルオープンした。館内には孤児や難民受け入れ時の様子が紹介されているほか「命のビザ」の複製なども展示。敦賀港の「人道の港」としての顔をうかがうことができる。



敦賀港(上)と敦賀ムゼウム(下)。同施設は大正から昭和初期にかけて敦賀港にあった敦賀港駅や税関旅具検査所など4棟の建物を当時の位置に復元したものだ。

DATA. 【住所】敦賀市金ヶ崎町23-1 【TEL】0770-37-1035 【時間】9:00～17:00（水休、大人500円、小学生以下300円）【アクセス】JR敦賀駅からバス10分、金ヶ崎緑地下車徒歩1分 ※祝日の場合翌日休、年末年始休



明治時代の建屋で知る赤十字の歩み

日 本赤十字社長野県支部が長野県庁内に設置されたのは明治期の1889年のこと。10年後には現在の支部所在地に長野支部事務所・看護婦養成所が建設され、長野における赤十字事業拡大の拠点となった。

2007年、老朽化のためにこの支部事務所建屋の取り壊しを取り沙汰された。しかし、救護看護婦を戦地へと送り出した「正面玄関」と「支部長室」は、赤十字の礎を築いたものとして保存されることになった。そこ

で、解体した建物の屋根瓦やガラス窓などを活用して往時の姿を復元、翌年4月1日に支部敷地内に開館したが、長野県赤十字歴史資料館だ。館内では、長野県支部に収蔵されている初代内閣総理大臣・伊藤博文の書「十字赤章」や、日本赤十字社初代総裁・小松宮彰仁親王の書「仁義」、赤十字救護看護婦の記録などを展示。ボランティアスタッフによるガイドが行われ、日本赤十字社の歴史と事業を伝えている。



R-TRAVEL GUIDE
長野
SPOT NO. 32-33

32 長野県赤十字歴史資料館 [日本赤十字社長野県支部]



館内の見学は要予約。ボランティアガイドが解説する見学経路は所要時間別に3つのコースがある。

DATA. 【住所】長野市南県町1074 【TEL】026-226-2073 【時間】9:00～16:00（土日祝休）【アクセス】JR長野駅から徒歩15分 ※見学は要予約。年末年始休、5月1日休





33 龍岡城五稜郭

長野の五稜郭に見る赤十字の出発点

五 芒星形要塞は、日本にふたつある。ひとつは北海道函館市の「五稜郭」、もうひとつが長野県佐久市の「龍岡城五稜郭」だ。2017年に続日本100名城に選ばれたこの史跡の一角に、佐野常民とともに日本赤十字社創立に尽力した大給恒の胸像がある。

恒は元の名を松平乗謨のりかたといい、かつて愛知県岡崎市にあった奥殿陣屋（P.41）を拠点とする三河国奥殿藩の藩主だった。参勤交代制の廃止に伴い、信濃国田野口藩の藩主となると、長

野県佐久市の地に五稜郭様式の龍岡城を築城した。胸像は、1990年5月10日、龍岡城城主であった恒の業績を後世に伝えるために日本赤十字社長野県支部が建てたもの。隣接する「五稜郭であいの館」には、城に関する写真や史料が展示されており、長野県赤十字広報奉仕団 龍岡城五稜郭保存会案内ボランティアがガイドを行っている（要予約）。

佐久市に残る江戸時代からの古い町並みとともに、歴史散策を楽しんでみては。



大給恒の胸像があるのは、龍岡城址大手門広場。日本赤十字社をつくり育てた恒の情熱と偉業を人々に伝えている。

DATA. 【住所】佐久市田口下町3000-1【TEL】0267-63-5321（佐久市文化振興課文化財事務所）【アクセス】JR龍岡城駅または白田駅から徒歩20分



雅人・佐野常民が愛した別荘庭園

全 国的に知られている温泉保養地、熱海。多くの旅館やホテルが建ち並ぶ中、網代温泉にある「松風苑」は、佐野常民の別荘跡地に建てられた旅館だ。

同館の4千坪の日本庭園は、常民の別荘の当時の庭園を保存したもの。庭園内には小川が流れ、四季折々の草木約60種が咲き誇る。また、常民の名を冠した貸切り風呂「常民庵」も宿の自慢のひとつとなっている。北島磯舟著『日本赤十字社之創立者佐野常民伝』によると、

常民は、元老院議長に昇進した1882年の4月から8月まで熱海に逗留したとある。当時は散策する場所も少なかった熱海の来宮神社周辺を開発し、海岸までの遊歩道をつくったのも常民だという。美術や工芸に造詣が深く、雅人としての一面もあつた常民の人柄を偲ばせるエピソードだ。

この庭園は、1948年に公開された清水宏監督の映画「蜂の巣の子どもたち」の撮影が行われたことから「蜂の巣庭園」とも呼ばれている。

DATA. 【住所】熱海市下多賀966【TEL】0557-68-3151【アクセス】JR網代駅から車で7分 ※宿泊者は無料送迎あり



庭園内に設けられた貸し切り露天風呂。掲げられた「常民庵」の文字が目を引く。

34 佐野常民の別荘庭園【松風苑】





35 旧日本赤十字社中央病院病棟 [博物館明治村]

愛知に残る赤十字と昭憲皇太后のつながり

国 宝・犬山城で知られる愛知県犬山市には、100万平方メートルの敷地に明治期の建築物67棟を移築した博物館明治村がある。名古屋市にあった東松家住宅など県内のものはもちろん、京都に建てられた聖ヨハネ教会堂、札幌市大通にあった札幌電話交換局など全国の文化財が集められ、そのうち国の重要文化財は11件。いわば歴史的建築物のテーマパークだ。ここには、かつて東京・広尾にあった旧日本赤十字社中央病院病棟も移築されている。

1887年に博愛社から日本赤十字社に名を改めた際、皇室から渋谷の御料地の一部と建設資金10万円が下賜されたことで、1891年に建てられたのが同病院。病棟は中庭を囲む分棟式の木造様式で、正面を飾る、桐、竹、鳳凰が浮き彫りにされた額が特徴。これは昭憲皇太后のアイデアをもとにしたものといわれており、「赤十字社総会行啓」の絵(P.20)にも描かれているように、皇太后と日本赤十字社との深い関わりを感じさせる。



博物館明治村は、入鹿池のほとりに建つ。国内有数の規模を誇る人工ため池で、愛知の観光地のひとつになっている。

DATA 【住所】犬山市字内山1番地【TEL】0568-67-0314【時間】9:30~17:00(火休、大人2000円、シニア・大学生1600円、高校生1200円、小・中学生700円)【アクセス】名古屋鉄道犬山駅からバス25分、明治村下車徒歩3分
※営業時間・定休日は時期により異なる



創立者・大給恒のルーツに触れる

大 給恒は、愛知県岡崎市を領地としていた奥殿藩の最後の藩主でもある。同藩が藩庁を置いていたのが、ここ奥殿陣屋だ。幕末期、当時松平乗謨を名乗っていた恒は、藩庁をこの地から長野県佐久市に移転。奥殿藩あらため田野口藩の藩主として龍岡城(P.38)を築城することとなる。

現在、奥殿陣屋は、移築された書院や歴代藩主の墓所、土塁とともに観光施設として整備されており、1万6000石の親藩としての歴史と文化を今に伝えていく。また、村積山自然公園の一部として、バラやチューリップなど四季折々の花が楽しめる観光名所としても親しまれている。



36 奥殿陣屋



DATA 【住所】岡崎市奥殿町字雑谷下10【TEL】0564-45-7230【時間】9:30~16:30(月休)【アクセス】名古屋鉄道東岡崎駅からバス30分、奥殿陣屋下車すぐ
※祝日の場合翌日休、年末年始休

Column

日本赤十字豊田看護大学の「博物館明治村寄託赤十字史料」

愛知県にある日本赤十字豊田看護大学には「赤十字史料室」が設置され、博物館明治村が所蔵する歴史的な史料が保管されている。これらの史料はマイクロフィルム化され学内外の研究者が閲覧できる(事前申請が必要)。

収められているのは、国内災害救護、日清・日露戦争などの戦時救護、人道支援など、日本赤十字社のさまざまな活動が記録された、博愛社時代からの社内文書、写真、書籍など。2027年に創立150周年を迎える日本赤十字社には、博愛社創立のきっかけとなった西南戦争(1877年)での負傷者救護から、「苦しんでいる人を救いたい」という人道の精神が綿々と引き継がれてきた。赤十字史料はその歴史の証言者だ。



赤十字史料室。博物館明治村から貸与された社内文書、写真、書籍などが大切に保管されている。

近畿 Kinki.

古くから伝わる歴史的逸話に見る
人道と博愛の精神

太平洋に浮かぶ本州最南端の紀伊大島。1890年、この地で起きたトルコ軍艦の遭難者に対し、日本赤十字社初の平時国際救護活動が行われた（P.51参照）。

1000年以上にわたり都が置かれた京都を中心に、いくつもの重要な歴史の舞台となってきた近畿地方。ここには中世からの伝統が今なお息づき、歴史的建造物や史跡、遺構が数多く存在するだけでなく、さまざまな歴史上の伝説や逸話も残されている。

南北朝時代の武将・楠木正行が敵の窮地を救ったとされる逸話、尼崎藩最後の藩主・櫻井忠興が実践した人道の精神、明治時代の沈没したトルコ軍艦の乗組員への救難活動、昭和初期に日本で初となった日本赤十字社大阪支部による救急自動車での救護活動……。

これらのエピソードには、古くから日本に受け継がれてきた博愛の精神を見出すことができる。日本赤十字社の前身・博愛社が生まれた幕末動乱期の主な舞台ともなったこの地には、まだ見ぬ赤十字の歴史との出会いが待っている。

Kinki Area Map





37 少年赤十字団発祥の地碑

顕彰碑のそばには、赤十字のシンボルツリーである「イトスギ」も植樹されている。



DATA: 【住所】守山市梅田町2 【アクセス】JR守山駅から徒歩1分

「青少年赤十字」が産声をあげた小学校

琵琶湖に面し、江戸時代には中山道を代表する宿場町として栄えた守山市。この街に、全国に先駆けて青少年赤十字が誕生した守山小学校がある。その歴史を後世に残すため、2004年7月に滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団湖南ブロックによって建てられたのが「少年赤十字団発祥の地」の碑。題字は書家・横江鶴(登紀子)、碑は守山小学校元校長で彫刻家の西村王允が制作。「世界を抱く大空を見上げて明るい未来に思いを馳せ、人間尊重の精神を胸に、気づき、考え、実行する、心豊かでたくましい子ども姿をイメージ」した。同校では今も青少年赤十字を基盤とした教育が受け継がれている。



39 緒方洪庵旧宅(適塾)



施設周辺は史跡公園として整備されており、緒方洪庵像も設置されている。

DATA: 【住所】大阪市中央区北浜3-3-8 【TEL】06-6231-1970 【時間】10:00~16:00(月休、大人270円、学生140円) 【アクセス】大阪メロ・京阪電鉄淀屋橋駅または北浜駅から徒歩5分 ※祝日の場合は開館、祝日の翌日(土日祝の場合は開館)、年末年始休



昭和初期、日本に初めて登場した「救急車」

1 932年3月、日本赤十字社大阪支部病院が大阪市西区江之子島と南区長堀橋に救急所を設けて配備した救急自動車、日本で初めての「救急車」だといわれている。1934年に増設された梅田と天王寺にも配備され、大阪市内では計4台が活躍した。その後、東京都支部、兵庫



38 日本初の救急車の写真 [日本赤十字社大阪府支部]



DATA: 【住所】大阪市中央区大手前2-1-7 【TEL】06-6943-0705 【アクセス】大阪メロ天満橋駅から徒歩5分

明治の英傑と学んだ佐野常民の青春時代

幕 末の大阪で、蘭学医・緒方洪庵によって開かれた蘭学塾「適塾」。福沢諭吉や大村益次郎など、近代日本の形成に多大な貢献を果たした人材を多数輩出したことで知られている。そして佐野常民もここで学んだひとりだ。適塾では西洋医学の研究をはじめ、種痘事業やコレラ治療など、医学史における大きな業績が生まれた。常民は25歳(1848年)のときに入塾し、医学の倫理や西洋の近代医学などを身につけたとされている。塾生の中には第3代日本赤十字社社長になる花房義質もいた。適塾は1862年に閉鎖されたものの、この塾を礎として、大阪医学校、府立医科大学、現在の大阪大学へと発展し、今日に至っている。現存する建物は1845年に当時の過書町の町屋を購入して拡張したもの。現在は大阪大学の管理のもと、国の重要文化財として一般公開されている。内部は洪庵が居住していた当時の姿に復元されており、見学することが可能だ。



41 赤十字山



山頂からの眺め(上)と、山頂にある標石(下)。赤十字山へは自由に入山できるが、個人の所有のため、マナーを守った行動を。

DATA 【住所】佐用郡佐用町【TEL】0790-82-2521 (佐用町役場)【アクセス】JR播磨徳久駅から徒歩30分



関 西を代表する六甲山をはじめ美しい山々が連なる兵庫県に、その名も「赤十字山」がある。山名は1967年発行の国土地理院の地図が初の正式なもの。1902年生まれのが幼少期からそう呼んでいたとの証言もあり、古くからの呼称と思われる。標高408メートルのこの山で初めて測量調査が行われたといわれているのは1890年。測量隊の機材運搬や道案内に村人が協力した際、山頂に埋設された二等三角点の標石に

刻まれた十字を見たと思われること、また博愛社が日本赤十字社に社名変更し、明治末期にはその名が全国に知れ渡るようになったことも背景に、赤十字山と呼ばれたと推測される。専門家によれば、「宗教的な山名が多い中、赤十字山という山名はとても珍しい」とのこと。最寄り駅から足を伸ばせば、朝霧に古城が浮かぶ、日本のマチュピチュ。こと竹田城跡も近い。赤十字山では山歩きが楽しめる、兵庫県の山岳を楽しむのうってつけだ。

40 小楠公義戦之跡の碑



碑文では「勇氣ト仁愛トヲ備ヘラレタコレコソ日本精神ノ化身トイフベキデアリマス」と正行の功績を称えている。

DATA 【住所】大阪市中央区北浜東【アクセス】大阪メトロ天満橋駅から徒歩10分、京阪電鉄天満橋駅から徒歩5分



か つて「水の都」と呼ばれ、水運が盛んだった大阪。その名残を感じさせる大川のほとりに、「小楠公義戦之跡」の碑が建っている。小楠公とは、南北朝時代の河内国(現在の大阪東部)を治めた武将・楠木正行のこと。石碑には次のように書かれている。正行が遠里小野(現在の住吉区)で室町幕府軍を打ち負かすと、幕府軍の将兵の多くが淀川(現在の淀川)に架かっていた渡辺橋まで追込まれ、川に転落。正行は橋から落ちた敵兵

500名余りを救出、衣食と薬を与えられた敵兵は帰順し、翌年正月5日、正行とともに四条畷で全員が討死した。そしてこの話にはさらに続きがある。明治の中頃に日本が赤十字に加盟する際のこと。欧米の関係者がこの逸話に感動したことから、容易に加盟が認められたといわれる。ちなみに、物語の舞台となった渡辺橋は、天神橋と天満橋の間にあったとか。水都の雰囲気味わいながら、川沿いで想像を巡らせてみたい。

受け継がれる南北朝時代の武将の「人道」

博愛社設立を支えた功労者・櫻井忠興

櫻井忠興は、1848年1月18日に尼崎藩6代藩主・松平忠栄の七男として誕生した。1868年の戊辰戦争では新政府に恭順し所領を安堵され、徳川との決別の証として櫻井と改姓。明治に入り、1869年の版籍奉還で尼崎藩知事に任じられるも、1871年の廃藩置県で藩知事職を免職され、翌々年には東京へ移住。そして1877年、博愛社の設立に尽力した。

忠興が48歳の若さでこの世を去ったのは1895年のこと。兵庫県西宮市にあった岡田山の別邸でその生涯を終え、尼崎市内の深正院に埋葬された。櫻井神社では忠興が祭神として祀られているだけでなく、博愛社の記念碑が境内に建てられ偉業を讃えている。



櫻井神社の境内にある博愛社記念碑。旧尼崎城の石が使われている。



42 櫻井神社



境内にある「博愛地藏」。博愛幼稚園の開園時、子どもたちが無事に成長することを願って建てられたもの。

■ 尼崎藩最後の藩主の思いに触れて

江 戸時代には城下町として栄え、2019年に復元されたこの街の新たなシンボルとなった尼崎城からほど近いところに、尼崎藩主・櫻井松平家を祀る櫻井神社がある。

1882年に建立されたこの神社に祀られているのは、初代の櫻井信定から16代櫻井忠興までの歴代藩主。そして最後の藩主となった忠興は、敵味方の区別なく負傷者の救護を行う赤十字精神に共感し、博愛社設立に尽力した陰の功労者だ。

1877年の博愛社設立に

あたっては多額の資金を寄付し、東京麹町富士見町にあった屋敷を仮事務所として提供。さらに博愛社からの命を受けて自費で九州各地に赴き、西南戦争の戦況や負傷者の救護状況を視察している。

1890年に櫻井神社の境内に設けられた「博愛幼稚園」は、博愛社の名が社名変更によってなくなるのを惜しんで名付けられたもの。また、今も境内に残る「博愛地藏」は開園にあたって安置された地藏菩薩像だといわれている。

DATA. 【住所】 尼崎市南城内116-11
【TEL】 06-6401-6643 【アクセス】 阪神電鉄尼崎駅から徒歩15分



■ 公園の片隅にも伝わる博愛の精神

阪 神電鉄尼崎駅前は大な中央公園として整備され、繁華街に近いこともあって、常に人々が行き交い、活気に満ちている。また、春には約2万本ものチューリップ、夏にはヒマワリ、秋にはキバナコスモスと、季節ごとに表情を変える、市民の憩いの場所でもある。櫻井忠興の功績は櫻井神社のみならず、この駅直結の公園にも残されている。「博愛の碑」は、日本赤十字社創立100周年にあたる1977年に尼崎文化協会によって建立されたも

の。赤十字をかたどったモニュメントに「博愛」の文字が彫られ、忠興の日本赤十字社創立への功績を讃えている。

DATA. 【住所】 尼崎市神田北通1-9 【アクセス】 阪神電鉄尼崎駅から徒歩1分



43 博愛の碑 [中央公園]



常民直筆の書類から寄付者名簿まで

紀

伊半島の南西部に位置する和歌山県に日本赤十字社の支部ができたのは、1895年1月のこと。そして同年12月から1906年12月までの11年間にわたる記録が同支部に保存されている。

佐野常民直筆の示達書、支部から本社に宛てた要望書、特別社員推薦書、異動辞令、昇給内

申書、県下各地区の寄付者・金額明細、電報原稿……。さまざまな資料が時系列で綴られたこの「秘書類」から、支部と本社

のやり取りや地域住民の日本赤十字社との関わりを知ることができる。明治期、全国各地に日本赤十字社の支部が誕生していた当時の様子を今に伝える、貴重な史料だ。



44 和歌山支部秘書類 [日本赤十字社和歌山県支部]



DATA: 【住所】和歌山市吹上 2-1-22 【TEL】073-422-7141 【アクセス】南海電鉄和歌山市駅からバス4分、真砂町下車徒歩1分

Column

日本赤十字社和歌山県支部に残る、女子学生たちの血判書



和歌山県支部には、「秘書類」以外にも、日本赤十字社の歴史を紐解くうえで重要な史料が保管されている。そのひとつが、戦時中に女子学生たちが記した「血判書」だ。

第二次世界大戦まっただ中の1943年、戦地での救護活動を志した女子学生たちが、その決意を和歌山県支部長に訴えるために自らの血をもって捺印・署名。原本から彼女たちの思いや、戦時下の悲壮な社会状況を感じ取ることができる。

日本とトルコを結んだ、初の国際救護活動

本

州最南端に位置する紀伊大島は、太平洋を望む風光明媚な観光地であり、島民のトルコ兵遭難者への救護活動をきっかけに、日本とトルコとの交流が始まった地でもある。

1890年9月16日、トルコの軍艦エルトゥールル号が暴風雨のため檣野埼沖で座礁沈没し、乗員587名が遭難する大惨事となった。しかし住民の懸命な救助活動によって救出された69名は神戸に搬送され、日本赤十字社が救護のために医師・看護師を派遣。言語や習慣の違いを乗

り越えて治療に当たり、10月10日には明治天皇の命で派遣された軍艦「金剛」「比叡」により全負傷者がトルコに還された。この事件を受けて、島内にはトルコ記念館や慰霊碑、そして日本赤十字社の平時における最初の国際救護活動を伝える記念碑も建立された。

この出来事はトルコ国民の心にも深く刻まれ、トルコの親日化にも影響を与えた。1990年には日本・トルコ修好100周年記念式典が開催。友好関係を現在も続けている。

45 トルコ記念館



トルコ記念館に併設された平時救護発祥の地碑。この出来事は日本・トルコ友好125周年を記念して「海難1890」として映画化された。

DATA: 【住所】東牟婁郡串本町檣野 1025-26 【TEL】0735-65-0628 【時間】9:00~17:00 (無休、大人500円、小・中・高校生250円) 【アクセス】JR串本駅から車で20分



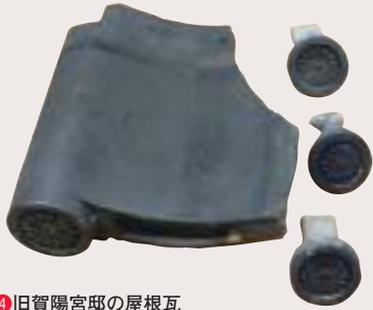
赤十字の
アート・ピース
— 京都第一赤十字病院の工芸品



①「手織錦洛翼の秋」 山鹿清華（1934年）



②「手織錦壁掛け」 山鹿清華（1937年）



④旧賀陽宮邸の屋根瓦



③旧賀陽宮邸の襖引手

①題名の「洛翼の秋」にある「翼」は辰巳の意味、京都御所の辰巳の方角に京都第一赤十字病院が位置していることから付けられた。染織工芸作家として揺るぎない地歩を固めた、清華49歳の作品。②清華が入院中、当時最新鋭だった医療機器を見学して関心を持った放射線科の撮影風景を描いたもの。退院後も来院してスケッチし、自宅工房で制作した。③④旧賀陽宮邸で使用されていた屋根瓦と襖の引手。

昭和初期に開院した京都第一赤十字病院には、京都ならではの雅な工芸品が収蔵されている。東洋一ともいわれた同院の歴史を今に伝える、ふたつの染織作品と旧賀陽宮家の建具をご紹介します。

山鹿清華の「手織錦洛翼の秋」と「手織錦壁掛け」

1934年、当時、東洋一の規模といわれた京都第一赤十字病院の創立竣工式が挙行された。のちの院長・松永周三が開院を記念して、親交のあった染織家・山鹿清華に作品を依頼、完成したのが「手織錦洛翼の秋」①。同年に東京で開催された万国赤十字大会の装飾に出品され、当時の社長・徳川家達からの懇請もあって、本社社長室に一時飾られていたといわれる。

また、1937年頃に入院した清華が制作し、病院に寄贈した作品が「手織錦壁掛け」②。1983年には変色を防ぐため、紫外線防止アクリル板で額装されている。額装は京都の名工匠のひとりで、「現代の名工」受賞者である大森清蔵によるもの。

賀陽宮邸で使われていた
屋根瓦と襖の引手

1945年10月、京都第一赤十字病院は進駐軍の兵站病院として接收され、存続が危ぶまれる事態に陥った。この窮地を救ったのが、高松宮宣仁親王で、東大路七条にあった旧賀陽宮邸の一部を借り、外来診療を開始した。

接收解除後には「京都赤十字病院七条病院」と改称、1969年4月に統合されるまで、主に内科疾患のある長期入院患者の治療を行った。また旧賀陽宮邸で使用されていた屋根瓦と襖の引手などの金具は、現在も同病院に大切に保管されている③④。

中国・四国

Chugoku / Shikoku.

戦争が引き起こした悲劇の舞台で
平和への祈りを込めて

平和記念公園内にある原爆ドームは、ほぼ爆心地で大破しながらも全壊を免れた。当時の日本赤十字社広島支部の社屋はこの隣にあり、原爆投下と同時に壊滅した(P.59参照)。

1945年8月6日午前8時15分、原子爆弾「リトルボーイ」が広島市に投下された。この人類史上初めて行われた都市への核攻撃によって14万人もの市民が命を落としたともいわれるが、犠牲者の総数はいまだ把握できていない。

この悲劇の舞台となった中国地方最大の都市・広島市には、平和記念公園を中心に原爆にまつわる施設が多数設けられ、訪れた人々が祈りを捧げている。

また、瀬戸内海を挟んだ四国には、かつて日露戦争や第一次世界大戦中に多数の捕虜収容所があった。ここでは地元民と外国人兵士、そして日本赤十字社職員とのあたたかな交流が生まれた。

この地には、戦争の悲惨さと平和の尊さへの思いとともに、苦しみの中にある人への博愛と献身の精神が受け継がれている。

Kinki Area Map

- 46 マルセル・ジュノー博士記念碑
- 47 袋町小学校平和資料館
- 48 広島赤十字・原爆病院メモリアルパーク
- 49 広島支部旧社屋の門柱
- 50 「天皇陛下御巡幸」の図
- 51 被爆直後の
広島赤十字病院の写真





46 マルセル・ジュノー博士記念碑 [平和記念公園]

【今も慕われる “広島” の功績】

原爆ドーム、広島平和記念資料館、原爆死没者慰霊碑……。世界平和を願うさまざまな施設やモニュメントがある平和記念公園。そのひとつに、1979年に広島県医師会が中心となって建立したマルセル・ジュノー博士記念碑がある。

スイス人のジュノー博士は、赤十字国際委員会の駐日首席代表として、連合国軍捕虜の支援のため1945年8月に来日。被爆地の惨状を知ると連合国軍総司令部（GHQ）に協力を求め、大量の医薬品を携えて広島

に入り、救護所などを回って被爆者の救援に当たった。当時あまり知られていなかったこの活動は、のちに医療関係者やジャーナリストらによって取り上げられることになる。

現在も、命日である6月16日前後の日曜日には「ジュノー記念祭」が催され、彼の思想を学ぼうとする市民がここに集う。記念碑の裏には、自伝的著書『第三の兵士』から引用されたこんな一節が刻まれている。「無数の叫びがあなたたちの助けを求めている」。



碑文に引用されている博士の著作『第三の兵士』は、『ドクター・ジュノーの戦い』という邦題で日本語訳が出版されている。

【DATA】 【住所】 広島市中区中島町1
 【TEL】 082-504-2576 (中区役所維持管理課) 【アクセス】 広島電鉄袋町駅から徒歩6分



【戦争の悲惨さを被爆者の「伝言」から知る】

平和記念公園から川を挟んだ向かい側、袋町小学校の敷地内には平和資料館が設けられている。この小学校が位置するのは、爆心地から460メートルの距離。原爆投下と同時に残っていた児童が犠牲になり、木造校舎はすべて倒壊・全焼。鉄筋コンクリート造の西校舎だけがかるうじて焼け残る壊滅的な被害を受けた。

唯一残った西校舎は、被爆直後から被災者の避難所や救護所として使用され、救護活動の重要な拠点となった。マルセル・

ジュノーもここを訪れ、医師・嘉屋文子や太田萩枝とともに治療に当たっている。

平和資料館は、この西校舎の一部を保存し、2003年に開館したもの。家族や知人の消息を伝えるため焼け残ったチョークで壁に記した伝言、被爆により壊れた扉や窓、炭化した木レンガ……。被災時の様子を伝える史料が多数展示されているほか、救護活動時の写真、遺族が肉親の残した伝言と対面する様子を記録した映像も見る事ができる。

【DATA】 【住所】 広島市中区袋町6-36
 【TEL】 082-541-5345 【時間】 9:00～17:00 (無休) 【アクセス】 広島電鉄本通駅から徒歩5分 ※年末年始休



建物隣には、その功績を讃え「マルセル・ジュノー広場」が設けられ、ここにもジュノー博士記念碑が置かれている。

47 袋町小学校平和資料館



収蔵庫に眠る被爆遺構
「広島支部病院」のピアノ



銘板に開院当時の病院名「日本赤十字社広島支部病院」と書かれていることから、ピアノは1939年から講堂にあったことがわかる。

広島市文化振興課に1台のピアノが保管されている。その銘板に書かれているのは、「日本赤十字社広島支部病院 講堂」の文字。

日本赤十字社広島支部病院は、現在の広島赤十字・原爆病院の前身として1939年5月に開院し、同月8日に広島陸軍病院赤十字病院、1943年1月に広島赤十字病院と改称。1945年8月の原子爆弾投下によって甚大な被害を受けることになる。

このピアノは院内の講堂で被爆し、長い間、使用されずに保管されていたもの。

その後、日本赤十字社広島県支部によって平和記念公園内の広島平和記念資料館に寄託された。一般公開はされていないが、当時の様子を伝える貴重な史料だ。



48 広島赤十字・原爆病院メモリアルパーク [日本赤十字社広島県支部]

■ 当時の様子を今に伝える「被爆遺構」

日 本赤十字社もまた、原爆によって大きな被害を受けている。投下当時、現在の原爆ドームの隣にあった広島支部社屋は壊滅、職員が犠牲となったほか、広島赤十字病院も爆風や火災の影響で激しく損傷。被爆によって多くの殉職者を出しながらも、職員や看護学生は被災者の救護に懸命に当たった。

現在の広島県支部の敷地内にある広島赤十字・原爆病院メモリアルパークは、殉職者の慰霊と被爆体験の継承、そして赤十

字精神を後世に伝え平和を希求するために整備された公園。園内には、原爆殉職職員慰霊碑や赤十字国際委員会委員長レオポルド・ボアシエの碑文のほか、爆風で歪んだ広島赤十字病院旧本館の窓枠や窓ガラスの破片が突き刺さった痕が残る壁などの被爆遺構がモニュメントとして保存されている。

メモリアルパークは常時開放されており、見学も自由。広島市内の平和関連施設を巡る“ピースツーリズム”には欠かすことのできない場所だ。



園内には、平和記念公園内の「マルセル・ジュノー博士記念碑」(P.56)と同型のレリーフを収めた碑や、「殉職職員並びに戦時事変戦没者合祀碑」もある。

■ 明治期の赤十字活動の面影を偲ぶ

2 013年10月、広島赤十字・原爆病院の新棟建築工事の際、日本赤十字社広島支部初代社屋の門柱が発掘された。

支部は広島博愛社を前身として1888年に創立され、1903年6月には建坪約166坪、木造瓦葺2階建の社屋を建設。この建物があったの

が病院の敷地内だった。

その後、支部は1936年7月に広島市猿楽町の産業奨励館隣に移転。産業奨励館とは現在は原爆ドームとして知られる建物で、ほぼ爆心直下にあったことから壊滅的な被害を受けることになる。門柱は現在の広島県支部入り口脇に設置され、来訪者を見守っている。



49 広島支部旧社屋の門柱

[日本赤十字社広島県支部]



DATA 【住所】広島市中区千田町2-5-64【TEL】082-241-8811【アクセス】広島電鉄日赤病院前駅から徒歩3分



50 「天皇陛下御巡幸」の図 [広島赤十字・原爆病院]

原爆の「重み」を今に伝える2枚の絵画

広島赤十字・原爆病院の中
央棟2階通路には、2枚の絵画が架けられている。そのうちの1枚に描かれているのは昭和天皇、もう1枚に描かれているのは天皇在位時の明仁上皇と美智子上皇后の姿だ。

昭和天皇は終戦間もない1947年12月6日に広島を訪問。日本三景のひとつ「安芸の宮島」として知られる厳島の岩惣旅館に滞在中、広島赤十字病院の初代院長・竹内劔から原爆の被災状況について報告を受けた。そのときの様子が「天皇陛下御巡幸」の図として描かれている。

もう1枚の「天皇皇后両陛下下御巡幸」の図は、明仁上皇が天皇に即位した1989年、美智子上皇后とともにここを訪れたときの様子を描いたもの。

広島赤十字・原爆病院は、世界で初めての原爆被爆者専門病院「日本赤十字社広島原爆病院」と広島赤十字病院が合併してつくられた施設。天皇をはじめとする皇族がたびたび慰問に訪れている。



「天皇陛下御巡幸の図」と「天皇皇后両陛下 広島赤十字・原爆病院行幸啓の図」は、明仁上皇と美智子上皇后が慰問に訪れた際の写真とともに、院内の廊下に並べて飾られている。

壊滅した病院に掲げられた赤十字旗

焼

け残った鉄筋コンクリート造の本館に掲げられた赤十字旗……。原爆投下直後の病院の写真が、広島赤十字・原爆病院入口、かつての正門があった場所に当時の門柱とともに展示されている。

収容中の軍患者250名のうち5名が被爆死、109名が負傷。生き残った職員は投下直後からわずかな医療機器と医薬品をもとに不眠不休で治療に当たった。翌日からは日本赤十字社岡山・山口・鳥取県各支部の救護班が順次到着、22日間で延べ3万1000人を救護したといわれている。また、病院地下室にあったレントゲンフィルムが感光していたことが、原爆投下の立証につながった。



52 俘虜用郵便葉書 [日本赤十字社徳島県支部]



DATA. 【住所】徳島市庄町3-12-1 【TEL】088-631-6000 【アクセス】徳島駅からバス20分、西署前下車徒歩1分

シベリアから四国に届いた一通の葉書

鳴

門海峡や阿波踊りなど、全国的に知られる観光資源を有する徳島は、四国で最初に日本赤十字社の支部ができた地でもある。

同支部には、赤十字の歴史を語るうえで貴重な1枚の葉書が残されている。それは1946年12月、当時のソ連赤十字社と日本赤十字社を通じ

て、シベリア抑留者が日本に残した家族に送った手紙。終戦後、日本軍の捕虜はシベリアなどで強制労働を強いられ、検閲によって手紙を送ることが難しかった。そして、ようやく家族の元へと届けられることとなったのが、たったひとつ「元気です」とだけ書かれたこの手紙だった。



51 被爆直後の広島赤十字病院の写真

【広島赤十字・原爆病院】



DATA. 【住所】広島市中区千田町1-9-6 【TEL】082-241-3111 【アクセス】広島電鉄日赤病院前駅から徒歩2分



54 ロシア兵墓地



松山俘虜収容所での重傷者の治療の様子。愛媛県支部には当時の史料が残されている。

DATA 【住所】松山市御幸1-531-2
【TEL】089-911-1863 (松山市生活衛生課) 【アクセス】伊予鉄道木屋町駅から徒歩15分



53 赤十字ゆかりの地碑 [ドイツ村公園]



公園内には収容所で亡くなったドイツ兵の慰霊碑が。そのほか、収容所のさまざまな遺構も残されている。

DATA 【住所】鳴門市大麻町板東【TEL】088-684-1157 (鳴門市観光振興課) 【アクセス】JR板東駅から車で5分



ドイツ兵とともに実践された人道の精神

ドイツと徳島には特別なつながりがある。それは第一次世界大戦中の1917年、捕虜となったドイツ兵約1000名が「板東俘虜収容所」に送られたときのこと。同収容所では松江豊寿所長をはじめとした職員によって人権を最大限に尊重した運営が行われ、自由な活動が認められたドイツ兵は、地元民と交流を深めた。

このエピソードがもととなり、板東俘虜収容所跡地はのちに「ドイツ村公園」として整備され、日本赤十字社徳島県支部は2011年9月に「赤十字ゆかりの地」として石碑を公園内に建立。人間愛に満ちた物語を後世に語り継いでいる。

松山に残る、心あたたまる日露のつながり

戦 時中の捕虜と赤十字のつながりは、日本で初めて捕虜収容所が設けられた愛媛にも残されている。

1904年に日露戦争が開戦すると、松山市内の公会堂や寺院を中心として収容所が多数開設され、捕虜となったロシア兵延べ6千名が送られた。日本赤十字社愛媛県支部の看護師は、現在の二之丸史跡庭園にあった衛戍病院や、城北練兵場に建てられた仮設病室で、負傷したロシア兵捕虜を手当てし、その献身的な看護に捕虜は深く

感謝したという。

松山市には、収容所で生涯を終えたロシア兵捕虜97名が埋葬された墓地があり、墓碑は祖国を望むように北向きに建てられている。この墓地は、地元の中学生による清掃活動のほか、慰霊祭が毎年行われるなど現在も大切にされている。当時、地元民が捕虜に親切に接したことで、その噂を聞いたロシア兵は投降する際に「マツヤマー」と叫んだという。愛媛の人々のあたたかさを感じられるエピソードだ。

九州

Kyushu.

日本の赤十字の父を生み、
博愛と人道の精神が芽吹いた場所

有明海の干潟から望む日の出。
常民が生まれ幼少期を過ごした
早津江村（P.67参照）も、有明
海に面していた。同じ日の出を常
民も見ていたのだろうか。

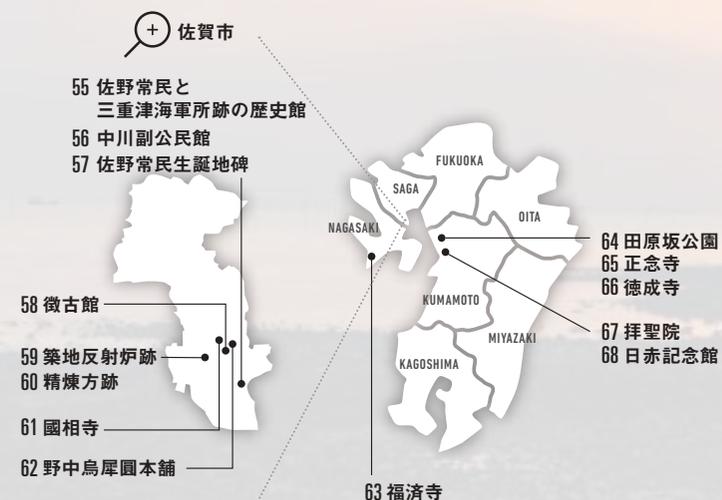
日本での赤十字の歩みを語るうえで、ここ九州の地を欠かすことにはできない。

博愛社を設立し、のちの日本赤十字社初代社長となった佐野常民は佐賀で生まれ、その生涯の多くをこの地で過ごしている。

また、1877年2月15日から9月24日まで続いた、西郷隆盛を盟主とする薩摩軍と有栖川宮熾仁親王率いる明治政府軍が戦った西南戦争。九州の大部分を巻き込み、両軍合わせて1万4000名余りが戦死した日本最後の内戦は、常民だけでなく、多くの日本人の人道の精神を呼び覚まし、博愛社設立の大きなきっかけともなった。

九州は、日本の赤十字活動の始まりの地。ここで生まれた想いが、人間のいのちと健康、尊厳を守るという日本赤十字社の使命へとつながっていく。

Kyushu Area Map





55 佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館

「佐賀の七賢人」常民の足跡をたどる

日 本赤十字社の創立者・佐野常民は、佐賀藩に生まれ、幕末から明治にかけて活躍した「佐賀の七賢人」のひとり。第10代佐賀藩主・鍋島直正、初代司法卿・江藤新平、初代文部卿・大木喬任、第8・17代内閣総理大臣・大隈重信らと並び称されている。その偉業に触れられるのが、常民が生まれた佐賀市川副町にある「佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館」だ。

生い立ちをはじめ、政治・産業・科学・芸術など、常民が残した幅広い分野にまたがる業績や、膨大な史料を映像とともに紹介している。2021年9月には常民に関する展示や赤字コーナーを一新し、「明治日本産業革命遺産」に関する展示を新設したほか、「ドライドック」の一部を原寸大模型で再現。また、周辺は佐野記念公園として整備されており、常民が国産初の実用蒸気船の完成に尽力した「三重津海軍所跡」もある。この遺構は「明治日本の産業革命遺産 製造業」の構成資産のひとつとして世界遺産にも登録されている。



館内には常民のさまざまな資料や遺品を展示。「日本赤十字社コーナー」も設けられている。

DATA 【住所】佐賀市川副町大字早津江津446-1【TEL】0952-34-9455【時間】9:00~17:00（月休、大人500円、小人200円）【アクセス】JR佐賀駅からバス40分、佐野・三重津歴史館入口下車徒歩5分 ※月曜祝日の場合は翌日休。年末年始・その他臨時休館日あり



常民の歩みを伝えるふたつの壁画

か つての中川副公民館には「佐野記念館」が併設されており、佐野常民にまつわる史料や作品が数多く展示されていた。その大部分は現在の「佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館」に移されたが、新設された中川副公民館の図書スペースには、今もふたつの巨大な陶板壁画が設置されている。

「三重津海軍所絵図」は、常民がその建設に関わった三重津海軍所の様子を描いたもの。「博愛社救護活動の図」には、戦いで負傷した人々が博愛社の救護所に運び込まれる様子が描かれている。中川副公民館は、佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館から歩いて5分。足を伸ばして見学に訪れてみたい。



56 中川副公民館



DATA 【住所】佐賀市川副町大字早津江津27-1【TEL】0952-45-4173【時間】8:30~22:00（第3日休）【アクセス】JR佐賀駅からバス40分、佐野・三重津歴史館入口下車徒歩5分

常民が幼少期を過ごした早津江村

佐 野常民と三重津海軍所跡の歴史館のそば、江戸時代には早津江村と呼ばれていた場所に、日本赤十字社創立50周年を記念して1926年に佐賀県支部が建てた「佐野常民生誕地」の記念碑がある。

1822年（文政5年）12月28日、常民は佐賀藩士・下村光賢の五男として生まれた（幼名・鱗三郎）。数え年11歳のときに親戚の佐野常徴（孺仙）の養子となり佐野源左衛門常世（P.28）を祖先とする佐野家を継ぐことになった。このとき佐賀藩前藩主・鍋島齊直から栄寿の名を授かっている。石碑の建つ場所の近くには、有明海へと注ぐ早津江川が流れている。常民はここで、どんな幼少期を過ごしたのだろう。



57 佐野常民生誕地碑



DATA 【住所】佐賀市川副町大字早津江津268【TEL】0952-34-9455（佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館）【アクセス】JR佐賀駅からバス40分、佐野・三重津歴史館入口下車徒歩5分



60 精煉方跡



跡地の一角に建つ碑。碑文には「佐賀藩 科学技術研究所跡」と記されている。
画像提供：佐賀市

DATA. 【住所】佐賀市多布施3-4-6
【TEL】0952-40-7105 (佐賀市企画調整部) 【アクセス】JR佐賀駅から徒歩20分



DATA. 【住所】佐賀市松原2-5-22 【TEL】0952-23-4200 【時間】9:30~16:00 (月休) 【アクセス】JR佐賀駅から徒歩20分
※展覧会開催中のみ開館

藩校跡地に建つ佐賀初の博物館

鍋

島家が代々藩主を務めた佐賀藩。第10代藩主・鍋島直正は人材教育に注力、藩校・弘道館を拡充し、佐野常民もここで医学を修めた。弘道館があった場所には現在、鍋島家伝来の史料や工芸品を展示する徴古館が建ち、敷地内には「弘道館跡」の石碑も残っている。徴古館は1927年、鍋島家

12代当主・直映が県初の博物館として開いた施設。昭和初期を代表する洋風建築として国の有形文化財に登録されている。現在は年4回の企画展時に開館。佐賀市の春の風物詩「佐賀城下ひなまつり」に合わせ「鍋島家の雛祭り」展を毎年開催し、華を添えている。

産業遺構に見る科学者としての常民の横顔

幕

末期、国内でも最先端の科学技術を誇っていた佐賀藩。その背景には、アジアに進出する欧米列強への強い危機感から、いち早く西洋技術を取り入れて軍備の近代化を遂げるという意図があった。

築地反射炉は、蘭学書をもとに1850年に建設された日本初の洋式反射炉。その後鉄製

大砲の製造に成功すると、さらに多布施反射炉を建設して大砲を量産。精煉方の責任者だった佐野常民もその製造を助けた。現在、跡地は日新小学校の敷地となっており、校庭には反射炉や24ポンドカノン砲の復元模型がある。佐賀藩のみならず、日本の近代化を語るうえでも重要な史跡だ。



DATA. 【住所】佐賀市長瀬町9-15 【TEL】0952-40-7368 (佐賀市文化振興課) 【アクセス】JR佐賀駅からバス15分、長瀬町下車徒歩10分

常民が辣腕を振るった先端研究施設

洋 式海軍の創設を目指した佐賀藩が、1852年に設置した研究開発機関「精煉方」。この施設では、大砲製造に必要な洋書の翻訳、薬剤や煙硝などの試験のほか、のちには蒸気機関や電信機の研究が行われるなど、当時最先端の「理学研究所」だった。

大阪の適塾(P.45)などでさまざまな学問を修めた佐野常民は帰藩後、この精煉方の頭人(主任)に就任。中村奇輔、石黒寛次、田中久重・儀右衛門父子などの有能な技術者を京都から招

き、新技術の研究に尽力。蒸気船・蒸気車の雛形製作といった成果を上げ、三重津海軍所での蒸気船の完成につながるようになった。精煉方はその後ガラス製造会社として民営化されたものの、現在は空き地に。近年は佐賀市によって跡地の発掘調査が行われており、排水溝と見られるレンガ造の遺構や土間の跡、ガラス片やガラスを溶かすためのろつぼの破片などが出土。今後の新たな歴史的発見が期待されている。



DATA 【住所】佐賀市愛敬町4-54【TEL】0952-24-4041【時間】10:00～17:00【アクセス】JR佐賀駅から徒歩10分

大楠が見守る、佐野家先祖の墓

江戸時代初期の万治年間
に創建された日蓮宗の
寺院・國相寺には、佐野家の墓
所がある。

1909年に火災によって本
堂が消失したものの、1960
年に当時としては珍しいコンク
リート造の本堂として再建。イ
ンドの仏舎利塔とギリシャのパ
ルテノン神殿のつくりを融合さ

せた珍しい様式だ。

また、境内には寺の歴史より
も古い樹齢800年といわれる
大楠があり、御神木として大切
に保存されている。現在は佐賀
市の天然記念物に指定されてお
り、佐野常民はこの木を守るた
めに多額の喜捨をしたと伝えら
れている。



62 野中烏犀園本舗



「野中烏犀園」は8種の和漢生薬に蜂蜜を加えた漢方保健剤。肉疲労や胃腸虚弱などを解消する滋養強壮効果がある。

DATA 【住所】佐賀市材木1-4-6【TEL】0952-23-2065（ウサイエン製薬株式会社）【時間】8:00～17:00（土日祝休）【アクセス】JR佐賀駅からバス10分、片田江下車徒歩10分 ※見学は要事前連絡



老舗製薬舗と赤十字のつながり

秘

薬として佐賀藩から伝
えられた万能生薬「野
中烏犀園」を製造・販売する、
1791年創業の野中烏犀園
本舗。現在も生薬の販売を続け
ている店舗は、1796年に烏
犀園の製造販売を藩から許可さ
れた際に建てられたもので、「冷
善楼」と呼ばれる座敷では、藩
の役人が薬の検査を行ったと伝
えられている。

白い漆喰壁、正面中央の大破
風、看板を吊るす屋形が江戸期
の商家の風情を伝え、周辺の歴
史的景観形成に寄与していると

して、国の登録有形文化財に指
定されている貴重な建築物だ。
8代当主の野中元右衛門は
藩の御用商人としても活躍し
た人物。佐野常民は佐賀藩の
産業奨励の視察と軍艦製造の用
務も兼ね、元右衛門らとともに
1867年に開催されたパリ
万国博覧会に参加。そこで赤十
字の展示館を見学したことが、
のちの博愛社設立へとつながる
ことになる。元右衛門はパリで
客死し、2017年6月にはそ
のバリで没後150年慰霊祭
が開かれた。

Column

佐賀市の住宅街にある 佐野常民の養父・孺仙の宅地跡



佐野孺仙宅地跡と思われる場所。史跡として公開されていない私有地のため、無断での立ち入りはご遠慮を。

常民と並ぶ佐賀の七賢人のひとり・大隈重信の生家とされる武家屋敷のほど近く、住宅街の一角に古びた門柱がある。付近は、佐賀藩の土地台帳「屋鋪御帳扣」に「佐野孺仙」の名前が記載されているあたり。そのことから、1831年に孺仙の養子となった佐野常民はここに住んでいたのではないかと考えられている。

大隈重信旧宅から北東方向にある枳小路沿いにその場所はあり、敷地には立ち入ることはできないものの、往時を偲ぶことができる。

近くには、旧大隈重信宅だけでなく、大隈重信記念館や佐賀城跡など、博物館や史跡も多数。ちょっとした歴史散歩にも最適だ。

63 福濟寺



原爆と西南戦争犠牲者を悼む観音像

唐使や遣隋使の出発地であり、江戸時代には鎖国下にあつて数少ない貿易拠点を有した長崎は、日本を代表する国際都市。1628年創建の福濟寺は長崎随一の規模を誇る唐寺として、幕末には勝海舟、坂本竜馬、シーボルトらが会議や宴会を催したといわれている。

そしてもうひとつ、この寺は、博愛社の救護所としても使われた歴史も持つ。かつて長崎市出島町にあつたキニール製薬場に設けられていた長崎軍団病院第11副舎が博愛社に移管されることになり、同副舎を福濟寺に移転。1877年8月から10月まで、ここを拠点に西南戦争の負傷者の治療が行われた。

歴史ある寺院の本堂などの建造物は、1927年に現在の国宝に当たる特別保護建築物に指定されたものの、1945年の長崎市への原爆投下によってそのほとんどが消失。復興を遂げたのち、原爆被災者と戦没者の冥福を祈って「万国霊廟長崎観音」が建てられた。巨大なその姿は、見る者に強い印象を与えている。



亀の形をした霊廟の上に建つ万国霊廟長崎観音は高さ18メートル(地上34メートル)。

DATA 【住所】長崎市筑後町2-56【TEL】095-823-2663【時間】7:00~17:00【アクセス】長崎電鉄長崎駅前駅から徒歩8分



熊本

SPOT NO. 64-68



64 田原坂公園



DATA 【住所】熊本市北区植木町豊岡858-1【TEL】096-272-4982(田原坂西南戦争資料館)【アクセス】JR田原坂駅から徒歩30分

赤十字精神、その原点の地

熊本には、博愛社設立にまつわる場所がいくつもある。なかでも原点ともいえるべきだが、1877年3月4日から約2週間にわたり西南戦争最大の激戦地となった田原坂だ。この田原坂の戦いでは、実に約3500名が戦死。惨状を憂いた佐野常民は、博愛社設立に奔走することになる。

跡地は現在、公園として整備され、園内には資料館が設けられているほか、「西南役戦没者慰霊之碑」や「田原坂崇烈碑」が建つ。また、激戦の跡が生々しく残る「弾痕の家」では、赤十字関連資料の展示も。戦争のない平和な世界と赤十字の人道的使命を祈る場所として、多くの人々が訪れている。

献身的な救護が博愛社誕生の端緒に

西 南戦争当時、「包帯所」と呼ばれる官軍病院が

寺院を中心に設置されていた。そのひとつが、田原坂の戦いにおける戦傷者救護で重要な役割を担った正念寺だ。今も生々しい弾痕が残る山門には「官軍病院」の石碑がある。

正念寺が包帯所だったのは1877年3月3日から4月

24日まで。しかしその後も地元

の医師たちにより懸命な治療が続けられた。担ぎ込まれた多数の戦傷者の悲惨さと救護活動が博愛社誕生につながったことから、境内には「博愛社発祥縁起の地」の碑も建てられている。石碑に刻まれた、日の丸の下に一本線を引いた博愛社の標章「赤の丸」にも注目。

65 正念寺



DATA 【住所】玉名郡玉東町木葉750【TEL】0968-85-3609(玉東町教育委員会)【アクセス】JR木葉駅から徒歩5分





68 日赤記念館(熊本洋学校教師ジェーンズ邸)



倒壊前の外観と館内の様子。館内には熊本洋学校の教科書や写真が展示されたほか、2階が日赤記念館となっていた。

画像提供：熊本市観光政策課

DATA. 【住所】熊本市中央区水前寺公園 12 【TEL】096-328-2740 (熊本市文化財課) 【アクセス】熊本市電市立体育館前駅から徒歩1分 ※休館中



西南戦争の犠牲者に祈りを捧げる

包

帯所とされた寺院のひとつである徳成寺は、弾を抜く、骨を継ぐといった応急手当てが敵味方を問わず施されたと伝えられる寺院。境内の山道には「日赤発祥之地」と刻まれた石碑が建つ。

石碑の碑文には戦況視察のため訪れた佐野常民と大給恒が町医者の献身的な行為に感激し、

博愛社の結成を決意したとの逸話が紹介され、その結びには「実ニ木葉ハ日赤発祥ノ地ナリ」と書かれている。

寺の付近には、田原坂の戦いなどで命を落とした兵士ら398名が眠る「宇蘇浦官軍墓地」など、西南戦争にゆかりのある名所・旧跡が点在。合わせて訪れてみたい。

66 徳成寺



DATA. 【住所】熊本県玉名郡玉東町木葉1056-1 【TEL】0968-85-2228 【アクセス】JR木葉駅から徒歩8分

桜と人道、日本人の心が息づく寺

樹

齢350年のヒガンザクが熊本市の保存樹木に指定され、花の寺として親しまれている真言宗の寺・拜聖院は、人道的なエピソードが伝わることも知られている。

熊本城下で代々医業を営んでいた鳩野宗巴は、西南戦争中、この寺に避難していた。その折り、薩摩軍兵士の治療を強要さ

れると、薩摩軍・官軍の区別なく治療することを条件に引き受け、旧藩医7名とともにこの地で負傷者を治療。

この救護活動は博愛社設立に先んじて行われたものだったため、境内には宗巴の胸像とともに、「日本の赤十字活動発祥の地」と書かれた木碑が設置されている。



67 拜聖院



DATA. 【住所】熊本市北区 区園町12-53 【TEL】096-343-0015【アクセス】熊本電鉄北熊本駅から徒歩10分

日本の赤十字のすべてはここから始まった

こ

れぞ赤十字ゆかりの地といえるのが、日本赤十字社の前身・博愛社設立の舞台となったジェーンズ邸だ。

もともとは熊本洋学校の教師として招かれたリロイ・ランシング・ジェーンズの邸宅として1871年につくられた建物で、県内最古の洋館として県の重要文化財に指定。かつては日本赤十字社熊本支部の事務局・血液センターとして利用されていた。その後、水前寺成趣園近くに「日赤記念館」として移築されるも2016年の熊本

地震で倒壊。2023年度開館に向け再建が進められている。

西南戦争の際、熊本城内にあったジェーンズ邸は戦火を逃れ、薩摩軍討伐の征討総督を務めた有栖川宮熾仁親王がここに征討総督府を置いて滞在。そして1877年5月1日、敵味方の区別なく救護を行う博愛社の設立を佐野常民が熾仁親王に直訴し、内諾を得たことが、現在の日本赤十字社の活動へとつながっていった。この日が、日本赤十字社の創立記念日となっている。

もうひとつの「発祥の地」と 玉名の地に伝わる物語

熊本県庁仮庁舎を訪れた ふたりの男

赤十字にまつわる「発祥の地」を名乗る場所は、日本各地に存在する。熊本県玉名市の玉名女子高等学校の中庭にある「日本赤十字社発祥之地」の石碑もそのひとつだ。玉名といえはNHK大河ドラマ「いだてん」東京オリムピック騒ぎの主人公で、日本人初のオリンピック選手となった「マラソンの父」金栗四三の生誕地として広く知られているが、この地には、博愛社誕生にまつわる物語もまた残されている。

時は明治時代、西南戦争さなかの1877年の春。通称岩崎原とも

呼ばれた地・高瀬にあった旧細川藩の高瀬藩邸がその舞台。

ある雨の日、高瀬藩邸に置かれた熊本県庁の仮庁舎に、蓑傘をまとったふたりの紳士が訪ねてきた。対応した給仕人にそのうちのひとりの名刺を差し出し、「県令に会いたい」と告げる。その名刺に書かれた名は「佐野常民」。給仕人は、受け取った名刺を差し出して県令・富岡敬明に来客を告げると、「ていねいに案内せよ」と命じられた。

この給仕人は、のちに名を平太郎と改め、熊本県玉名郡弥富村の村長となる塚本平次。当時18歳だった平次は、給仕の間、常民のこんな言葉を目にしたという。「勅令で来た。

佐野常民と有栖川宮熾仁親王。博愛社設立に深く関わったふたりの人物の足跡は、熊本県玉名市にも見られた。今もこの地に伝わる、日本赤十字社発祥にまつわる秘話とは。



高瀬藩邸跡地に建つ玉名女子高等学校（熊本県玉名市岩崎1061）。看護教育にも力を入れる青少年赤十字加盟校でもある。

富小学校の教頭で光蓮寺住職でもあった父・多田登園や娘の雪子に語り伝えている。

「博愛社事業ノ端緒ヲ興セリ」

この逸話は1930年刊行の『高瀬藩岩崎原誌』（続亀友書）にも「博愛社ノ創立四月中旬草軽脚絆ノ出テ立チニテ岩崎原ナル仮県庁ヲ訪ヒ、刺ヲ通ズルモノアリキ、是レナン佐野常民氏ニシテ氏ハ博愛社ノ創設ニ関シ総督宮殿下ノ御裁下ヲ仰ガントシテ来県シ此ニ始メテ会社ノ事務ヲ開キ、岩崎原小学校ノ一ヲ以テ之ニ充テ仮県庁、仮裁判所

ト同一家屋内ニ博愛社事業ノ端緒ヲ興セリ」と記されている。また1923年に刊行された『玉名郡誌』にも「高瀬戦後後有栖川宮熾仁親王は征討都督として本營を高瀬に進め高瀬繁根木

町江副醫院の階上に暫く投宿遊ばされた」とあり、熾仁親王が高瀬の地を訪れたことがうかがえる。

これらの記述が正しければ、常民は熾仁親王に会うべく、3月25日から4月18日まで高瀬藩邸に置かれていた県庁舎を訪れ、現地で博愛社の事務を執ったことになる。現在、博愛社誕生のきっかけとなったのは熊本城内にあったジェーンズ邸（P.75）での常民と熾仁親王との面会であったとされているが、ここ玉名の地もまた、博愛社発祥の地なのだ。

知られざる歴史を 後世に残すために

高瀬藩邸はその後、弥富小学校、岩崎原小学校、新穂登免玉名実践女学院（のちに玉名実践女学校、熊本県玉名高等家政女学校、玉名家政高等学校と改称）を経て、現在の玉名女子高等学校に至っている。

1936年、玉名家政高等学校校長・寺本直樹は、博愛社設立と深い

縁のあった当地を記念する標木を校内に設けた。その際、「間違いがあってはならぬ」と、常民の高瀬来訪が実際にあったか否かを確認するため、元弥富小学校校長の岩尾喜鶴、平次の父・登園らと上京。佐野家からは「たしかに事実あり」との返答を受けたという。

現在、玉名女子高等学校の校庭にある石碑は、日本赤十字社創立100周年にあたる1977年、標木が古くなったことから、日本赤十字社玉名地区長で玉名市長も務めた橋本二郎、熊本県支部の現地救護班長で吉田外科医院長でもある吉田春雄、高校の青少年赤十字指導者らが県支部の協力を得て建立したものだ。当初は校舎裏手にあったが、2015年頃に玄関前に、ほどなくして現在の場所に移設された。

博愛社設立と日本赤十字社の創立、そしてその後の戦時・平時における数々の救護活動。そのすべてに、人間のいのちと健康、尊厳を守るべく奔走した数多の物語がある。



校庭にある「日本赤十字社発祥之地」の石碑。裏面にはその由緒が刻まれている。

赤十字ゆかりの地 全国マップ

日本全国に広がる赤十字関連の史跡や施設。地図を参考に、自分だけの旅のプランを立てて訪れてみてはいかが？

- 史跡・モニュメント
- 自然・公園
- 施設
- 寺社
- 史料・作品



【北海道】

- 01 日赤の森 ⇨P.06
- 02 イチイの木 ⇨P.07
- 03 北海道委員部設立申立書 ⇨P.07



【佐賀】

- 55 佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館 ⇨P.66
- 56 中川副公民館 ⇨P.67
- 57 佐野常民生誕地碑 ⇨P.67
- 58 徴古館 ⇨P.68
- 59 築地反射炉跡 ⇨P.68
- 60 精煉方跡 ⇨P.69
- 61 國相寺 ⇨P.70
- 〈Column〉佐野孺仙の宅地跡 ⇨P.70
- 62 野中烏犀園本舗 ⇨P.71



【滋賀】

- 37 少年赤十字団発祥の地碑 ⇨P.44

【京都】

- 〈Red Cross Stories 03〉「手織錦洛異の秋」「手織錦壁掛け」「賀陽宮邸の屋根瓦・襖の引手」⇨P.52



【大阪】

- 38 日本初の救急車の写真 ⇨P.44
- 39 緒方洪庵旧宅(適塾) ⇨P.45
- 40 小楠公義戦之跡の碑 ⇨P.46



【兵庫】

- 41 赤十字山 ⇨P.47
- 42 櫻井神社 ⇨P.48
- 〈Column〉博愛社の記念碑 ⇨P.49
- 43 博愛の碑 ⇨P.49



【熊本】

- 64 田原坂公園 ⇨P.73
- 65 正念寺 ⇨P.73
- 66 徳成寺 ⇨P.74
- 67 拜聖院 ⇨P.74
- 68 日赤記念館(熊本洋学校教師ジェーンズ邸) ⇨P.75
- 〈Red Cross Stories 04〉日本赤十字社発祥之地碑 ⇨P.76



【長崎】

- 63 福濟寺 ⇨P.72



【広島】

- 46 マルセル・ジュノー博士記念碑 ⇨P.56
- 47 袋町小学校平和資料館 ⇨P.57
- 48 広島赤十字・原爆病院メモリアルパーク ⇨P.58
- 〈Column〉「広島支部病院」のピアノ ⇨P.59
- 49 広島支部旧社屋の門柱 ⇨P.59
- 50 「天皇陛下御巡幸」の図 ⇨P.60
- 51 被爆直後の広島赤十字病院の写真 ⇨P.61



【徳島】

- 52 俘虜用郵便葉書 ⇨P.61
- 53 赤十字ゆかりの地碑 ⇨P.62



【愛媛】

- 54 ロシア兵墓地 ⇨P.63



【和歌山】

- 44 和歌山支部秘書類 ⇨P.50
- 〈Column〉女子学生の血判書 ⇨P.50
- 45 トルコ記念館 ⇨P.51



【和歌山】

- 44 和歌山支部秘書類 ⇨P.50
- 〈Column〉女子学生の血判書 ⇨P.50
- 45 トルコ記念館 ⇨P.51



【新潟】

- 28 清水園 ⇨P.34



【富山】

- 29 佐野源左衛門常世之遺跡碑 ⇨P.35



【福井】

- 30 橋本綱常博士胸像 ⇨P.35
- 31 人道の港 敦賀ムゼウム ⇨P.36



【長野】

- 32 長野県赤十字歴史資料館 ⇨P.37
- 33 龍岡城五稜郭 ⇨P.38



【茨城】

- 15 戦時救護資料展示コーナー ⇨P.19



【栃木】

- 〈Red Cross Stories 02〉佐野源左衛門常世の墓 ⇨P.28



【東京】

- 16 「赤十字社総会行啓」の絵 ⇨P.20
- 17 日本赤十字社発祥の地 ⇨P.21
- 18 日本赤十字社跡記念碑 ⇨P.21
- 19 殉職救護員慰霊碑 ⇨P.22
- 20 赤十字情報プラザ ⇨P.22
- 21 小松宮彰仁親王像 ⇨P.24
- 22 東京都復興記念館 ⇨P.24
- 23 佐野常民の墓 ⇨P.25
- 24 大給恒の墓 ⇨P.26
- 25 日本赤十字看護大学史料室 ⇨P.26
- 26 有栖川宮熾仁親王像 ⇨P.27
- 27 萩原タケ女史の像 ⇨P.27



【青森】

- 04 三上剛太郎生家 ⇨P.08
- 05 佐井村海峽ミュージアム ⇨P.09



【岩手】

- 07 日赤岩手乳児院 ⇨P.11



【宮城】

- 06 赤十字救護看護婦慰霊碑 ⇨P.10
- 〈Column〉“命の砦”の赤十字旗 ⇨P.10



【秋田】

- 10 「別れの乳房」⇨P.13
- 11 「一対の額」⇨P.13
- 12 佐藤養助 総本店 ⇨P.14



【福島】

- 08 新島八重の生誕地碑 ⇨P.11
- 09 平時災害救護発祥の地記念碑 ⇨P.12



【群馬】

- 〈Red Cross Stories 02〉常世神社 ⇨P.28



【埼玉】

- 13 埼玉支部旧社屋 ⇨P.18
- 14 殉職救護員慰霊碑 ⇨P.19



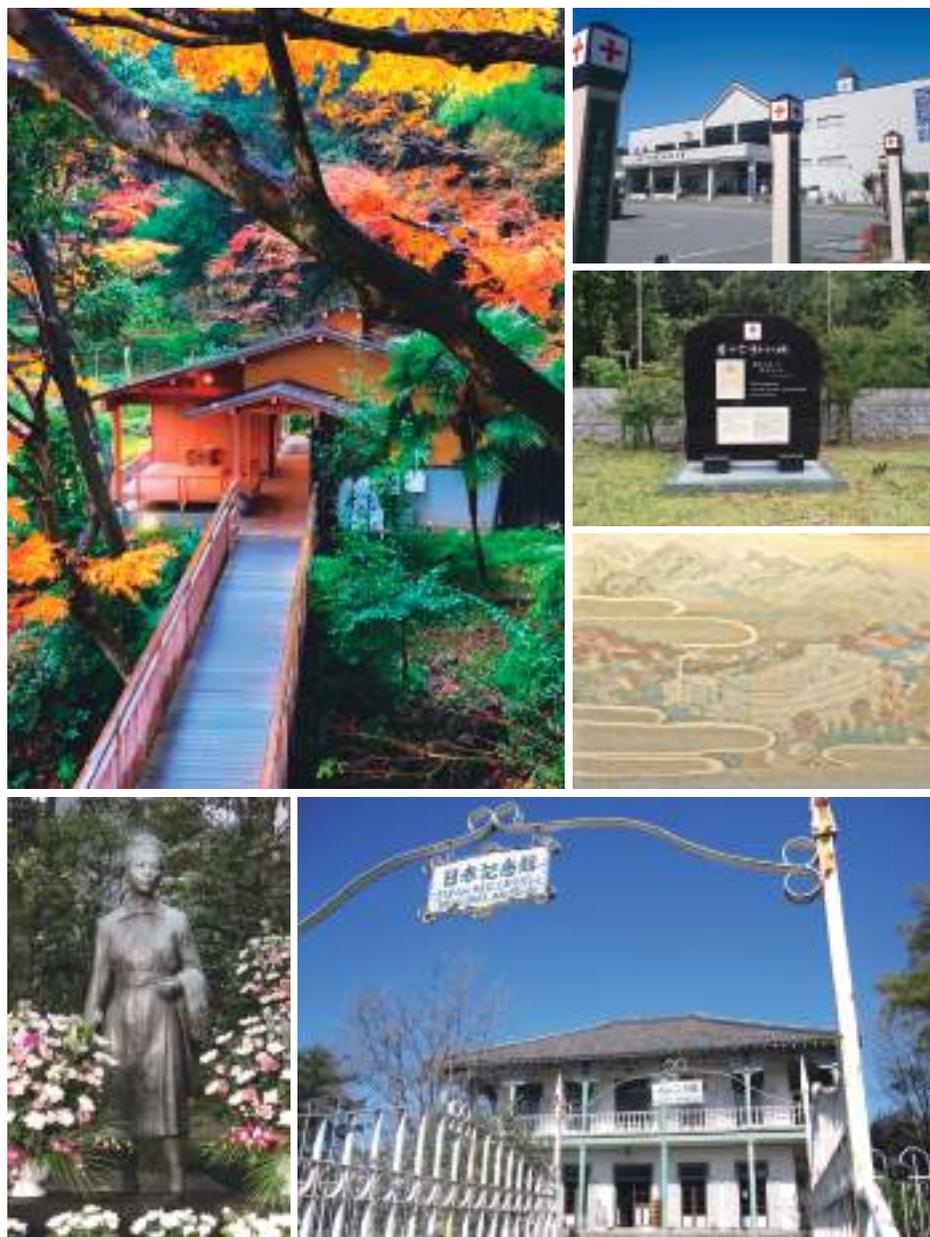
【静岡】

- 34 佐野常民の別荘庭園 ⇨P.39



【愛知】

- 35 旧日本赤十字社中央病院病棟 ⇨P.40
- 〈Column〉博物館明治村寄託赤十字史料 ⇨P.41
- 36 奥殿陣屋 ⇨P.41



R+travel.

赤十字ゆかりの地ガイドブック

2021年7月1日 第1刷発行

2022年7月1日 第2刷発行

発行 学校法人日本赤十字学園 日本赤十字国際人道研究センター
〒105-0012 東京都渋谷区広尾4-1-3(日本赤十字看護大学内)
<https://www.jrc.ac.jp/ihs/>

企画・監修 井上忠男
編集 畑厚彦
写真 鍵岡龍門(表紙、表2-P.1、P.18)
デザイン リライト_S
構成・編集 リライト_W

本書に記載しているのは2022年4月時点の情報です。定休日・営業時間などは変更となる場合がありますので、ご利用の際は必ず事前にご確認ください。また、定休日は年末年始・GW・お盆休みなどを省略している場合があります。